

Q001 6-1 関係法規 / 資格法 [難易度:基礎]
理学療法士及び作業療法士法の目的として最も適切なのはどれか。
ア. 資格を定め業務を適正に規律し、医療の普及及び向上に寄与すること
イ. 理学療法士の報酬額を全国一律に定めること
ウ. 介護保険サービスだけを規律すること
エ. 病院の病床数を定めること

正答：ア 資格を定め業務を適正に規律し、医療の普及及び向上に寄与すること
ア ○ 同法第1条は、資格と業務の適正な運用を通じ医療の普及・向上に寄与することを目的とする。
イ × 同法の目的ではない。
ウ × 医療職資格法であり介護保険だけを対象としない。
エ × 病床区分は医療法の領域である。
総合解説：同法第1条は、資格と業務の適正な運用を通じ医療の普及・向上に寄与することを目的とする。

Q002 6-1 関係法規 / 資格法 [難易度:標準]
法令上の理学療法の説明として最も適切なのはどれか。
ア. 精神障害者だけを対象に手芸を行わせること
イ. 身体に障害のある者に対し、主として基本的動作能力の回復を図るため運動や物理的手段を用いること
ウ. 診断と薬剤処方を独立して行うこと
エ. 疾病予防だけを目的とする行政活動

正答：イ 身体に障害のある者に対し、主として基本的動作能力の回復を図るため運動や物理的手段を用いること
ア × 作業療法の定義に近い。
イ ○ 法第2条は基本的動作能力の回復を目的に治療体操その他の運動、電気刺激、マッサージ、温熱等を用いると定める。
ウ × 理学療法の法定定義ではない。
エ × 法定の理学療法定義とは異なる。
総合解説：法第2条は基本的動作能力の回復を目的に治療体操その他の運動、電気刺激、マッサージ、温熱等を用いると定める。

Q003 6-1 関係法規 / 資格法 [難易度:標準]
法令上の理学療法士の定義として最も適切なのはどれか。
ア. 都道府県知事の免許だけで独立診断を行う者
イ. 国家試験に合格した時点で免許なしに業務できる者
ウ. 厚生労働大臣の免許を受け、理学療法士の名称を用い、医師の指示の下に理学療法を業とする者
エ. 医師の指示を受けず全ての医療行為を行える者

正答：ウ 厚生労働大臣の免許を受け、理学療法士の名称を用い、医師の指示の下に理学療法を業とする者
ア × 免許権者と業務内容が異なる。
イ × 国家試験合格に加え免許が必要である。
ウ ○ 法第2条第3項の定義である。
エ × 法定定義に反する。
総合解説：法第2条第3項の定義である。

Q004 6-1 関係法規 / 資格法 [難易度:基礎]
理学療法士になるために必要なものとして最も適切なのはどれか。
ア. 養成校卒業だけ
イ. 都道府県の登録だけ
ウ. 医療機関への就職だけ
エ. 理学療法士国家試験に合格し、厚生労働大臣の免許を受けること

正答：エ 理学療法士国家試験に合格し、厚生労働大臣の免許を受けること
ア × 卒業だけでは免許取得にならない。
イ × 免許権者は厚生労働大臣である。
ウ × 就職は資格取得要件ではない。
エ ○ 法第3条は国家試験合格と厚生労働大臣の免許を要件とする。
総合解説：法第3条は国家試験合格と厚生労働大臣の免許を要件とする。

Q005 6-1 関係法規 / 資格法 [難易度:応用]
理学療法士及び作業療法士法の欠格事由について最も適切なのはどれか。
ア. 一定の犯罪・不正行為等がある者には免許を与えないことがある
イ. 該当すれば必ず永久に免許取得不能である
ウ. 交通違反が一度でもあれば必ず欠格となる
エ. 欠格事由は存在しない

正答：ア 一定の犯罪・不正行為等がある者には免許を与えないことがある
ア ○ 法第4条は該当者について一律当然失格ではなく、免許を与えないことがあると定める。
イ × 条文は『与えないことがある』である。
ウ × そのような一律規定ではない。
エ × 法第4条に定めがある。
総合解説：法第4条は該当者について一律当然失格ではなく、免許を与えないことがあると定める。

Q006 6-1 関係法規 / 資格法 [難易度:標準]
理学療法士が法令上、診療の補助として行うことができる業務はどれか。
ア. 医師免許を要する診断を独立して行う
イ. 理学療法
ウ. 処方箋を独立して発行する
エ. 麻酔を独立して実施する

正答：イ 理学療法
ア × 診断権は付与されていない。
イ ○ 法第15条により、診療の補助として理学療法を行うことを業とできる。
ウ × 理学療法士の業務ではない。
エ × 理学療法士の法定業務ではない。
総合解説：法第15条により、診療の補助として理学療法を行うことを業とできる。

Q007 6-1 関係法規 / 資格法 [難易度:基礎]

理学療法士が理学療法としてマッサージを行う場合の法的取扱いとして最も適切なのはどれか。

- ア. 理学療法士なら場所や指示に関係なく自由にマッサージ業を行える
- イ. 理学療法士は理学療法としてもマッサージを一切行えない
- ウ. 病院・診療所で行う場合、または医師の具体的指示を受けて行う場合には、所定の条件ではき法の規定が適用されない
- エ. 患者同意だけあれば医師指示は常に不要である

正答：ウ 病院・診療所で行う場合、または医師の具体的指示を受けて行う場合には、所定の条件ではき法の規定が適用されない

ア × 法の条件を外れる一般的マッサージ業を当然に認める規定ではない。

イ × 法定の理学療法手段にマッサージが含まれる。

ウ ○ 法第15条第2項に規定される特例である。

エ × 理学療法士の業務は医師の指示の下に行う。

総合解説：法第15条第2項に規定される特例である。

Q008 6-1 関係法規 / 資格法 [難易度:標準]

理学療法士の守秘義務について最も適切なのはどれか。

- ア. 退職すれば自由に話してよい
- イ. 家族から聞かれれば本人同意なしに常に話してよい
- ウ. 病名だけは秘密に含まれない
- エ. 正当な理由なく業務上知り得た人の秘密を漏らしてはならず、資格を失った後も同様である

正答：エ 正当な理由なく業務上知り得た人の秘密を漏らしてはならず、資格を失った後も同様である

ア × 退職・資格喪失後も義務は継続する。

イ × 正当な理由や本人同意等の検討が必要である。

ウ × 診療情報は秘密に含まれ得る。

エ ○ 法第16条は理学療法士でなくなった後も守秘義務を課す。

総合解説：法第16条は理学療法士でなくなった後も守秘義務を課す。

Q009 6-1 関係法規 / 資格法 [難易度:応用]
理学療法士の名称使用について最も適切なのはどれか。
ア. 理学療法士でない者は、理学療法士または紛らわしい名称を使用してはならない
イ. 誰でも理学療法士と名乗れる
ウ. 医療機関勤務者なら無資格でも名乗れる
エ. 国家試験受験予定者は合格前から名乗れる

正答：ア 理学療法士でない者は、理学療法士または紛らわしい名称を使用してはならない
ア ○ 法第17条は名称使用を制限している。
イ × 名称使用は制限されている。
ウ × 勤務先ではなく資格の有無で決まる。
エ × 免許取得前には使用できない。
総合解説：法第17条は名称使用を制限している。

Q010 6-1 関係法規 / 資格法 [難易度:標準]
法第16条の守秘義務に違反した場合の罰則として最も適切なのはどれか。
ア. 罰則は一切ない
イ. 50万円以下の罰金の対象となり得る
ウ. 必ず拘禁刑のみとなる
エ. 名称使用違反と同じ30万円以下だけである

正答：イ 50万円以下の罰金の対象となり得る
ア × 法定罰則がある。
イ ○ 現行法第21条は守秘義務違反に対する罰則を定める。
ウ × 条文は罰金を定める。
エ × 守秘義務違反は別条文で定められる。
総合解説：現行法第21条は守秘義務違反に対する罰則を定める。

Q011 6-1 関係法規 / 資格法 [難易度:基礎]
理学療法中、患者に新たな強い胸痛が出現した。最も適切なのはどれか。
ア. 自ら心筋梗塞と確定診断して薬を処方する
イ. 予定メニューを完遂してから報告する
ウ. 訓練を中止し、安全を確保して医師等へ速やかに報告し指示を受ける
エ. 患者が希望すれば胸痛を無視して続ける

正答：ウ 訓練を中止し、安全を確保して医師等へ速やかに報告し指示を受ける
ア × 診断・処方 は理学療法士の権限ではない。
イ × 急変時は安全確保と報告が優先される。
ウ ○ 理学療法士は医師の指示の下に業務を行い、病態変化時は独断で診断・治療を進めない。
エ × 安全管理上不適切である。
総合解説：理学療法士は医師の指示の下に業務を行い、病態変化時は独断で診断・治療を進めない。

Q012 6-1 関係法規 / 資格法 [難易度:標準]
理学療法士が資格法を遵守した業務を行うために最も適切なのはどれか。
ア. 国家試験合格後は法令確認不要である
イ. 施設内ルールが法令と矛盾しても施設ルールを優先する
ウ. 患者同意があれば法定業務範囲を超えてよい
エ. 免許・業務範囲・医師の指示・守秘義務・名称使用制限を理解して行動する

正答：エ 免許・業務範囲・医師の指示・守秘義務・名称使用制限を理解して行動する
ア × 法令遵守は継続的な職業責任である。
イ × 法令遵守が前提である。
ウ × 同意があっても法令上の権限を超えられない。
エ ○ 資格法は免許取得だけでなく業務の適正な運用を規律する。
総合解説：資格法は免許取得だけでなく業務の適正な運用を規律する。

Q013 6-1 関係法規 / 医療法 [難易度:標準]
医療法上の『病院』として最も適切なものはどれか。
ア. 20人以上の患者を入院させるための施設を有する医療提供施設
イ. 入院設備がなくても病院と呼ぶ
ウ. 19人以下の入院設備を持つ施設は必ず病院である
エ. 理学療法室があれば病床数に関係なく病院である

正答：ア 20人以上の患者を入院させるための施設を有する医療提供施設
ア ○ 医療法第1条の5は20人以上の入院施設を有するものを病院と定義する。
イ × 入院設備のない医療施設は診療所に該当し得る。
ウ × 19人以下は診療所の範囲である。
エ × 病院・診療所の区分は病床数等で定められる。
総合解説：医療法第1条の5は20人以上の入院施設を有するものを病院と定義する。

Q014 6-1 関係法規 / 医療法 [難易度:基礎]
医療法上の診療所として最も適切なものはどれか。
ア. 20人以上の入院施設を持つものだけ
イ. 入院施設を有しない、または19人以下の患者を入院させる施設を有する医療提供施設
ウ. 医師が勤務しない介護施設すべて
エ. 病床数に関係なく病院と同義

正答：イ 入院施設を有しない、または19人以下の患者を入院させる施設を有する医療提供施設
ア × 20人以上は病院である。
イ ○ 医療法第1条の5第2項の定義である。
ウ × 医療法上の診療所定義とは異なる。
エ × 病院と診療所は区別される。
総合解説：医療法第1条の5第2項の定義である。

Q015 6-1 関係法規 / 医療法 [難易度:応用]
病院等の管理者が確保すべき医療安全体制として適切なのはどれか。
ア. 事故報告を禁止する
イ. 安全管理の研修を実施しない
ウ. 医療安全のための指針を整備する
エ. 重大事故だけ扱い軽微事例は一切分析しない

正答：ウ 医療安全のための指針を整備する
ア × 事故・ヒヤリハット情報は改善に活用する。
イ × 研修は安全体制の構成要素である。
ウ ○ 医療法施行規則は病院等に安全管理指針の整備等を求める。
エ × 改善には幅広い事例把握が重要である。
総合解説：医療法施行規則は病院等に安全管理指針の整備等を求める。

Q016 6-1 関係法規 / 医療法 [難易度:標準]
病院等の医療安全管理委員会の役割として最も適切なのはどれか。
ア. 事故を起こした職員の処罰だけを目的とする
イ. 患者情報を院外へ無制限に公開する
ウ. 安全対策の評価を行わない
エ. 重大な問題の原因を分析し、改善策を立案・実施して従業者へ周知する

正答：エ 重大な問題の原因を分析し、改善策を立案・実施して従業者へ周知する
ア × 医療安全の目的は原因分析と再発防止である。
イ × 守秘義務・個人情報保護が必要である。
ウ × 改善策の実効性評価が必要である。
エ ○ 医療安全管理委員会は原因分析と改善策の策定・周知を担う。
総合解説：医療安全管理委員会は原因分析と改善策の策定・周知を担う。

Q017 6-1 関係法規 / 医療法 [難易度:基礎]
医療安全の職員研修について最も適切なのはどれか。
ア. 医療安全の基本事項や事故防止策を職員が共有するために実施する
イ. 新入職員だけ一度受ければ十分である
ウ. 医師だけが対象である
エ. 事故発生後は研修を行ってはならない

正答：ア 医療安全の基本事項や事故防止策を職員が共有するために実施する
ア ○ 医療安全は個人だけでなく組織全体で学習する仕組みが必要である。
イ × 継続的な研修が重要である。
ウ × 医療安全は全職種が関わる。
エ × 事故分析を教育へ反映することが重要である。
総合解説：医療安全は個人だけでなく組織全体で学習する仕組みが必要である。

Q018 6-1 関係法規 / 医療法 [難易度:標準]
医療安全に関する患者相談への対応として最も適切なのはどれか。
ア. 苦情は安全管理と無関係として記録しない
イ. 患者・家族が相談できる窓口や体制を整え、適切に対応する
ウ. 相談者を不利益に扱う
エ. 相談内容を無関係な職員全員に共有する

正答：イ 患者・家族が相談できる窓口や体制を整え、適切に対応する
ア × 患者からの情報は安全改善の手がかりとなる。
イ ○ 患者からの相談に適切に応じる体制は安全で質の高い医療に関わる。
ウ × 適切な相談対応に反する。
エ × 必要最小限の情報共有と個人情報保護が必要である。
総合解説：患者からの相談に適切に応じる体制は安全で質の高い医療に関わる。

Q019 6-1 関係法規 / 医療法 [難易度:応用]
医療事故調査制度の主な目的として最も適切なものはどれか。
ア. 刑事責任を確定することだけ
イ. 遺族への補償額を決めることだけ
ウ. 医療事故の院内調査と第三者機関による収集・分析を通じて再発防止につなげること
エ. 全ての有害事象を国が直接捜査すること

正答：ウ 医療事故の院内調査と第三者機関による収集・分析を通じて再発防止につなげること
ア × 制度は医療安全確保と再発防止を目的とする。
イ × 補償決定制度ではない。
ウ ○ 医療事故調査制度は院内調査を基礎に再発防止へつなげる仕組みである。
エ × 制度の仕組みとは異なる。
総合解説：医療事故調査制度は院内調査を基礎に再発防止へつなげる仕組みである。

Q020 6-1 関係法規 / 医療法 [難易度:標準]
医療事故調査制度上の『医療事故』に該当する基本要件として最も適切なものはどれか。
ア. 転倒など全てのインシデント
イ. 患者の全ての不満
ウ. 予定された死亡を全て含む
エ. 提供した医療に起因または起因すると疑われる死亡・死産で、管理者が予期しなかったもの

正答：エ 提供した医療に起因または起因すると疑われる死亡・死産で、管理者が予期しなかったもの
ア × 制度上の医療事故は死亡・死産等の法定要件を満たすもの。
イ × 苦情一般とは異なる。
ウ × 予期しなかった死亡等が要件となる。
エ ○ 医療法第6条の10は制度対象となる医療事故を定義している。
総合解説：医療法第6条の10は制度対象となる医療事故を定義している。

Q021 6-1 関係法規 / 医療法 [難易度:基礎]
医療事故調査制度の対象となる医療事故が発生した場合の管理者の対応として最も適切なものはどれか。
ア. 必要事項を医療事故調査・支援センターへ遅滞なく報告する
イ. 院内だけで隠す
ウ. 患者家族へ何も説明しない
エ. 事故に関与した職員個人だけで判断する

正答：ア 必要事項を医療事故調査・支援センターへ遅滞なく報告する
ア ○ 制度対象事故では管理者がセンター報告と院内調査を進める。
イ × 法定報告が必要である。
ウ × 法令に基づく説明が必要となる。
エ × 管理者が制度上の判断・報告を行う。
総合解説：制度対象事故では管理者がセンター報告と院内調査を進める。

Q022 6-1 関係法規 / 医療法 [難易度:標準]
退院後も療養が必要な患者に対する病院・診療所の対応として最も適切なものはどれか。
ア. 退院した時点で一切の連携を終了する
イ. 保健医療・福祉サービス提供者との連携を図る
ウ. 患者本人の生活状況は考慮しない
エ. 医療と福祉は情報共有してはならない

正答：イ 保健医療・福祉サービス提供者との連携を図る
ア × 継続療養には連携が必要である。
イ ○ 医療法は退院後の療養に必要な保健医療・福祉サービスとの連携を求めている。
ウ × 退院支援では生活背景が重要である。
エ × 本人同意等を踏まえ必要な連携を行う。
総合解説：医療法は退院後の療養に必要な保健医療・福祉サービスとの連携を求めている。

Q023 6-1 関係法規 / 個人情報 [難易度:標準]
患者の病歴や診療情報について最も適切なのはどれか。
ア. 個人情報には該当しない
イ. 自由に第三者提供できる
ウ. 不当な差別等が生じないよう特に配慮を要する要配慮個人情報に該当する
エ. 公開情報になった時点で医療者の守秘義務は全て消える

正答：ウ 不当な差別等が生じないよう特に配慮を要する要配慮個人情報に該当する
ア × 病歴・診療情報は個人情報である。
イ × 原則として本人同意等が必要である。
ウ ○ 病歴、診療内容、健康診断結果などは要配慮個人情報に該当する。
エ × 守秘義務は別途検討が必要である。
総合解説：病歴、診療内容、健康診断結果などは要配慮個人情報に該当する。

Q024 6-1 関係法規 / 個人情報 [難易度:基礎]
医療機関が患者の個人情報を取り扱う際の利用目的について最も適切なのはどれか。
ア. 目的を定めず自由に利用できる
イ. 一度取得すればどの目的にも使える
ウ. 職員が個人的研究に自由に転用できる
エ. 利用目的をできる限り特定し、必要に応じ通知または公表する

正答：エ 利用目的をできる限り特定し、必要に応じ通知または公表する
ア × 利用目的の特定が必要である。
イ × 目的外利用は制限される。
ウ × 研究利用には法・倫理上の手続が必要である。
エ ○ 個人情報保護法は利用目的の特定と目的による利用制限を定める。
総合解説：個人情報保護法は利用目的の特定と目的による利用制限を定める。

Q025 6-1 関係法規 / 個人情報 [難易度:応用]
患者情報の目的外利用について最も適切なのはどれか。
ア. 原則として本人同意なく特定した利用目的の達成に必要な範囲を超えて取り扱わない
イ. 医療者なら目的に関係なく利用できる
ウ. 院内であれば個人的SNS投稿に利用できる
エ. 氏名を一部省略すれば常に自由に使える

正答：ア 原則として本人同意なく特定した利用目的の達成に必要な範囲を超えて取り扱わない
ア ○ 利用目的の範囲を超える取扱いには原則本人同意等が必要である。
イ × 目的外利用は制限される。
ウ × 不適切な利用である。
エ × 再識別可能性や利用目的等の検討が必要である。
総合解説：利用目的の範囲を超える取扱いには原則本人同意等が必要である。

Q026 6-1 関係法規 / 個人情報 [難易度:標準]
患者の診療情報を第三者へ提供する場合の原則として最も適切なのはどれか。
ア. 家族なら本人の意思に関係なく常に提供できる
イ. あらかじめ本人の同意を得る
ウ. 勤務先から求められれば無条件で提供する
エ. 友人の医療者なら自由に共有できる

正答：イ あらかじめ本人の同意を得る
ア × 本人同意や例外要件の検討が必要である。
イ ○ 個人データの第三者提供は本人同意が原則で、法定例外がある。
ウ × 第三者提供の原則に反する。
エ × 治療上必要な共有等でなければ不適切である。
総合解説：個人データの第三者提供は本人同意が原則で、法定例外がある。

Q027 6-1 関係法規 / 個人情報 [難易度:基礎]
意識不明の患者について救命のため他院へ必要な診療情報を提供する場
合、最も適切なのはどれか。
ア. 本人同意がないので救命に必要でも絶対に提供できない
イ. 必要範囲を超えて全情報を公開する
ウ. 生命・身体保護に必要で本人同意取得が困難な場合は、法の例外とし
て必要範囲の提供が可能ながある
エ. SNSで広く情報提供する

正答：ウ 生命・身体保護に必要で本人同意取得が困難な場合は、法の例外として必要範囲の提供が可能ながある
ア × 法には生命・身体保護の例外がある。
イ × 例外でも必要性と範囲を考える。
ウ ○ 本人同意原則には生命・身体保護などの法定例外がある。
エ × 救命に必要な相手への提供とは異なる。
総合解説：本人同意原則には生命・身体保護などの法定例外がある。

Q028 6-1 関係法規 / 個人情報 [難易度:標準]
判断能力のある患者の病状を家族へ説明する際に最も適切なのはどれか
。
ア. 家族であれば誰にでも詳細を話す
イ. 患者が拒否しても家族の希望を常に優先する
ウ. 待合室で聞こえるように説明する
エ. あらかじめ誰に説明してよいか患者本人へ確認し、同意を得ることが
望ましい

正答：エ あらかじめ誰に説明してよいか患者本人へ確認し、同意を得ることが望ましい
ア × 本人の意思確認が必要である。
イ × 患者の自己決定と個人情報保護を尊重する。
ウ × プライバシー保護が必要である。
エ ○ 家族への病状説明も第三者提供となり得るため本人の意向を確認する。
総合解説：家族への病状説明も第三者提供となり得るため本人の意向を確認する。

Q029 6-1 関係法規 / 個人情報 [難易度:応用]
患者情報の安全管理として最も適切なものはどれか。
ア. アクセス権限、持出し管理、端末管理、職員教育などを組み合わせる
イ. パスワードを職員全員で共有する
ウ. 患者一覧を公共の場所に放置する
エ. 退職者のアカウントをそのまま残す

正答：ア アクセス権限、持出し管理、端末管理、職員教育などを組み合わせる
ア ○ 医療情報は組織的・人的・物理的・技術的な安全管理措置で保護する。
イ × アクセス管理として不適切である。
ウ × 漏えいリスクが高い。
エ × 不要なアクセス権を無効化する必要がある。
総合解説：医療情報は組織的・人的・物理的・技術的な安全管理措置で保護する。

Q030 6-1 関係法規 / 個人情報 [難易度:標準]
患者情報を誤って外部へ送信したことに気づいた。最も適切なものはどれか。
ア. 送信先が一人なら隠す
イ. 直ちに施設の報告手順に従い、拡大防止・事実確認・必要な報告対応を行う
ウ. 自分でメールを削除すれば報告不要である
エ. 患者の責任として処理する

正答：イ 直ちに施設の報告手順に従い、拡大防止・事実確認・必要な報告対応を行う
ア × 漏えいは速やかに組織へ報告する。
イ ○ 漏えい時は隠蔽せず、組織の責任体制で拡大防止と法令に沿った対応を行う。
ウ × 相手側への到達状況等を含め組織的対応が必要である。
エ × 事業者側の安全管理問題である。
総合解説：漏えい時は隠蔽せず、組織の責任体制で拡大防止と法令に沿った対応を行う。

Q031 6-2 医療安全 / リスク管理 [難易度:基礎]
インシデント・ヒヤリハット報告の目的として最も適切なものはどれか。
ア. 報告者を処罰することだけ
イ. 軽微事例を隠すこと
ウ. 事故につながる要因を把握し、組織的な再発・未然防止策につなげる
エ. 患者個人の責任を追及すること

正答：ウ 事故につながる要因を把握し、組織的な再発・未然防止策につなげる
ア × 報告制度の中心目的は安全改善である。
イ × 軽微な事例からもシステム上の弱点を学べる。
ウ ○ インシデント報告は組織学習のための情報源として活用する。
エ × 医療安全ではシステム要因も分析する。
総合解説：インシデント報告は組織学習のための情報源として活用する。

Q032 6-2 医療安全 / リスク管理 [難易度:標準]
理学療法開始前のリスク評価として最も適切なものはどれか。
ア. 診断名だけ見て開始する
イ. 患者の希望だけで負荷を決める
ウ. 昨日安全なら今日は評価不要である
エ. 病態、バイタル、治療制限、薬剤、転倒・急変リスクを確認する

正答：エ 病態、バイタル、治療制限、薬剤、転倒・急変リスクを確認する
ア × 同じ診断名でも全身状態は異なる。
イ × 医学的安全性と目標を統合する必要がある。
ウ × 状態は日々変化するため再確認する。
エ ○ 開始前評価は患者ごとの危険因子と当日の状態を確認する。
総合解説：開始前評価は患者ごとの危険因子と当日の状態を確認する。

Q033 6-2 医療安全 / リスク管理 [難易度:標準]
同姓同名患者がいる病棟での患者確認として最も適切なのはどれか。
ア. 氏名に加えて生年月日など複数の識別情報で確認する
イ. 部屋番号だけで確認する
ウ. 顔を覚えているので確認しない
エ. 家族の呼び方だけで確認する

正答：ア 氏名に加えて生年月日など複数の識別情報で確認する
ア ○ 患者誤認防止では複数識別子を用いた確認を習慣化する。
イ × 部屋移動などで誤認が生じ得る。
ウ × 思い込みによる誤認を防げない。
エ × 正式な複数識別情報を用いる。
総合解説：患者誤認防止では複数識別子を用いた確認を習慣化する。

Q034 6-2 医療安全 / リスク管理 [難易度:基礎]
歩行訓練前に最も優先して確認する内容はどれか。
ア. 歩行距離だけ
イ. 起立時症状、下肢支持性、認知、履物、補助具、環境
ウ. 患者の年齢だけ
エ. 病室の広さだけ

正答：イ 起立時症状、下肢支持性、認知、履物、補助具、環境
ア × 転倒リスクは多因子である。
イ ○ 転倒予防は患者機能と環境の相互作用を評価する。
ウ × 年齢のみでは介助量を決められない。
エ × 患者側・環境側双方を評価する。
総合解説：転倒予防は患者機能と環境の相互作用を評価する。

Q035 6-2 医療安全 / リスク管理 [難易度:応用]
運動中に新たな胸痛、冷汗、強い呼吸困難が出現した。最も適切なのはどれか。
ア. 予定回数まで続ける
イ. 負荷を上げて反応を見る
ウ. 直ちに運動を中止し、バイタル確認と緊急報告を行う
エ. 患者が我慢できるなら続ける

正答：ウ 直ちに運動を中止し、バイタル確認と緊急報告を行う
ア × 重篤病態を悪化させ得る。
イ × 危険である。
ウ ○ 警告症状では運動効果より急変対応を優先する。
エ × 安全確保が優先される。
総合解説：警告症状では運動効果より急変対応を優先する。

Q036 6-2 医療安全 / リスク管理 [難易度:標準]
点滴・ドレーン・酸素チューブがある患者の離床で最も適切なのはどれか。
ア. ラインを確認せず先に立たせる
イ. チューブを患者の足元へまとめる
ウ. 医療機器があれば全員離床禁止とする
エ. 固定、接続、長さ、移動経路を確認して必要に応じ複数名で介助する

正答：エ 固定、接続、長さ、移動経路を確認して必要に応じ複数名で介助する
ア × 抜去・閉塞の危険がある。
イ × つまずきの原因となる。
ウ × 適切な管理下で離床可能な場合が多い。
エ ○ 医療機器も患者の一部として移動計画へ含める。
総合解説：医療機器も患者の一部として移動計画へ含める。

Q037 6-2 医療安全 / リスク管理 [難易度:基礎]

嚥下障害が疑われる患者の理学療法中の対応として最も適切なのはどれか。
ア. 食後の状態や咳、湿性嚔声、呼吸状態を観察し、異常時は多職種へ共有する
イ. 嚥下は理学療法と無関係なので無視する
ウ. 咳込みがあっても仰臥位訓練を強行する
エ. 水を大量に飲ませて確認する

正答：ア 食後の状態や咳、湿性嚔声、呼吸状態を観察し、異常時は多職種へ共有する
ア ○ 理学療法中も全身リスクを観察し、専門職へ適切につなぐ。
イ × 誤嚥性肺炎は離床・呼吸状態に影響する。
ウ × 呼吸状態を評価する必要がある。
エ × 安全な嚥下評価なしでは危険である。
総合解説：理学療法中も全身リスクを観察し、専門職へ適切につなぐ。

Q038 6-2 医療安全 / リスク管理 [難易度:標準]

降圧薬開始後に立ちくらみが増えた患者への対応として最も適切なのはどれか。
ア. 理学療法士が薬を中止する
イ. 起立時血圧と症状を確認し、薬剤変更後の変化として医師・看護師等へ共有する
ウ. 薬剤は歩行安全性と無関係である
エ. 転倒するまで通常訓練を続ける

正答：イ 起立時血圧と症状を確認し、薬剤変更後の変化として医師・看護師等へ共有する
ア × 処方変更権限はない。
イ ○ 薬剤は運動応答・転倒・意識状態へ影響するため、変更時は特に注意する。
ウ × 循環応答に影響し得る。
エ × 事前にリスクを評価する。
総合解説：薬剤は運動応答・転倒・意識状態へ影響するため、変更時は特に注意する。

Q039 6-2 医療安全 / リスク管理 [難易度:応用]
電気刺激療法を行う前の安全確認として最も適切なものはどれか。
ア. 機器の添付文書や施設手順は不要である
イ. 感覚障害が強いほど刺激を最大にする
ウ. 植込み機器、皮膚状態、感覚、禁忌・注意事項を確認する
エ. 患者が希望すれば禁忌を無視する

正答：ウ 植込み機器、皮膚状態、感覚、禁忌・注意事項を確認する
ア × 安全使用条件を確認する。
イ × 皮膚損傷に気づきにくく危険である。
ウ ○ 物理療法では機器固有のリスクと患者側のリスクを両方確認する。
エ × 同意があっても安全基準を超えない。
総合解説：物理療法では機器固有のリスクと患者側のリスクを両方確認する。

Q040 6-2 医療安全 / リスク管理 [難易度:標準]
リスク情報の申し送りとして最も適切なものはどれか。
ア. 『注意してください』だけ伝える
イ. 重大な情報を口頭で一人にだけ伝える
ウ. 古い情報を更新しない
エ. 転倒歴、急変徴候、禁忌、介助方法など行動に必要な情報を具体的に共有する

正答：エ 転倒歴、急変徴候、禁忌、介助方法など行動に必要な情報を具体的に共有する
ア × 具体的な危険と対策が分からない。
イ × 記録やチーム共有が必要な場合がある。
ウ × 状態変化に応じ更新する。
エ ○ 申し送りは曖昧な注意喚起ではなく、具体的なリスクと対策を共有する。
総合解説：申し送りは曖昧な注意喚起ではなく、具体的なリスクと対策を共有する。

Q041 6-2 医療安全 / リスク管理 [難易度:基礎]
安全文化を高める組織の対応として最も適切なのはどれか。
ア. 職種や立場に関係なく危険を指摘でき、報告から学習できる環境を作る
イ. 上司の判断には疑問があっても発言しない
ウ. ミスを隠した職員を評価する
エ. 再発防止策は現場へ知らせない

正答：ア 職種や立場に関係なく危険を指摘でき、報告から学習できる環境を作る
ア ○ 安全文化では心理的安全性と報告・学習の仕組みが重要である。
イ × 権威勾配が安全を損なうことがある。
ウ × 報告を妨げる。
エ × 改善策は共有・実行する必要がある。
総合解説：安全文化では心理的安全性と報告・学習の仕組みが重要である。

Q042 6-2 医療安全 / リスク管理 [難易度:標準]
ヒューマンエラー対策として最も適切なのはどれか。
ア. 『気をつける』だけを唯一の対策にする
イ. 個人の注意力だけに依存せず、標準化・チェック・環境設計でエラーを減らす
ウ. 経験者はミスをしないと考える
エ. 手順を複雑にするほど安全になる

正答：イ 個人の注意力だけに依存せず、標準化・チェック・環境設計でエラーを減らす
ア × 人の注意力には限界がある。
イ ○ 医療安全では人間の特性を前提にシステムを設計する。
ウ × 経験者でもエラーは起こり得る。
エ × 複雑性は新たなエラー要因となり得る。
総合解説：医療安全では人間の特性を前提にシステムを設計する。

Q043 6-2 医療安全 / リスク管理 [難易度:標準]
チェックリストの使用方法として最も適切なのはどれか。
ア. 項目を読まず一括でチェックする
イ. 確認項目を毎回担当者の記憶だけで変える
ウ. 重要項目を簡潔に標準化し、実際の確認行為と組み合わせる
エ. チェック済みなら患者状態変化を無視する

正答：ウ 重要項目を簡潔に標準化し、実際の確認行為と組み合わせる
ア × 形骸化し安全効果が失われる。
イ × 標準化の利点がなくなる。
ウ ○ チェックリストは思考停止ではなく重要確認を確実にする補助具である。
エ × チェック後も臨床観察が必要である。
総合解説：チェックリストは思考停止ではなく重要確認を確実にする補助具である。

Q044 6-2 医療安全 / リスク管理 [難易度:基礎]
入院中に患者の介助量が急に増えた。最も適切なのはどれか。
ア. 昨日と同じ介助量を固定する
イ. 年齢のせいと決めつける
ウ. 記録せず担当者だけで対応する
エ. 新たな病態変化や薬剤・認知・疼痛等を再評価し、介助方法と計画を更新する

正答：エ 新たな病態変化や薬剤・認知・疼痛等を再評価し、介助方法と計画を更新する
ア × 状態変化を見逃す。
イ × 急変には原因検索が必要である。
ウ × チーム共有が必要な場合がある。
エ ○ リスク管理は初回評価で終わらず、変化を捉えて再評価する。
総合解説：リスク管理は初回評価で終わらず、変化を捉えて再評価する。

Q045 6-2 医療安全 / 感染管理 [難易度:応用]
標準予防策の基本として最も適切なものはどれか。
ア. 全ての患者の血液・体液等を感染性があるものとして必要な予防策を行う
イ. 感染症と診断された患者だけに行う
ウ. 手袋をすれば手指衛生は不要である
エ. リハビリ職には不要である

正答：ア 全ての患者の血液・体液等を感染性があるものとして必要な予防策を行う
ア ○ 標準予防策は感染症の有無にかかわらず医療の基本となる。
イ × 標準予防策は全患者が対象である。
ウ × 手袋使用前後にも手指衛生が必要である。
エ × 患者に接触する全職種に関係する。
総合解説：標準予防策は感染症の有無にかかわらず医療の基本となる。

Q046 6-2 医療安全 / 感染管理 [難易度:標準]
手指が目に見えて汚染されている場合の対応として最も適切なものはどれか。
ア. 手袋を二重にすれば洗わなくてよい
イ. 石けんと流水による手洗いをを行う
ウ. 衣服で拭くだけ
エ. 患者ごとの手指衛生は不要である

正答：イ 石けんと流水による手洗いをを行う
ア × 手指衛生は必要である。
イ ○ 目に見える汚染がある場合は石けんと流水を用いる。
ウ × 汚染除去にならない。
エ × 接触前後の適切な手指衛生が重要である。
総合解説：目に見える汚染がある場合は石けんと流水を用いる。

Q047 6-2 医療安全 / 感染管理 [難易度:基礎]
手袋の使用について最も適切なのはどれか。
ア. 同じ手袋で複数患者に触れる
イ. 手袋を着ければ環境表面を何でも触ってよい
ウ. 血液・体液への接触が予想される場面で使用し、患者・処置ごとに交換する
エ. 手袋を外した後の手指衛生は不要である

正答：ウ 血液・体液への接触が予想される場面で使用し、患者・処置ごとに交換する
ア × 交差感染を起こす。
イ × 汚染を広げる可能性がある。
ウ ○ 手袋は手指衛生の代替ではなく、適切な場面で使い捨てる。
エ × 外す際の汚染等があり手指衛生が必要である。
総合解説：手袋は手指衛生の代替ではなく、適切な場面で使い捨てる。

Q048 6-2 医療安全 / 感染管理 [難易度:標準]
接触感染対策が必要な患者への理学療法として最も適切なのはどれか。
ア. 患者間で同じ機器を清拭せず使う
イ. 病室から出た後も汚染したガウンを着続ける
ウ. 必要なりハビリを全て中止する
エ. 必要な手袋・ガウン等を使用し、使用機器の清拭と手指衛生を徹底する

正答：エ 必要な手袋・ガウン等を使用し、使用機器の清拭と手指衛生を徹底する
ア × 病原体伝播につながる。
イ × 汚染拡大の原因となる。
ウ × 適切な感染対策下で実施を検討する。
エ ○ 感染対策と必要なりハビリテーションを両立させる。
総合解説：感染対策と必要なりハビリテーションを両立させる。

Q049 6-2 医療安全 / 感染管理 [難易度:応用]
インフルエンザなど飛沫感染対策で最も適切なものはどれか。
ア. 患者近くでのケアではサージカルマスク等の飛沫対策を行う
イ. N95を全ての飛沫感染で必須とする
ウ. マスクは患者だけ着ければ職員は不要である
エ. 換気や咳エチケットは不要である

正答：ア 患者近くでのケアではサージカルマスク等の飛沫対策を行う
ア ○ 感染経路に応じて標準予防策へ飛沫予防策を追加する。
イ × 空気感染対策とは異なる。
ウ × 職員側の予防策も必要である。
エ × 感染対策の一部となる。
総合解説：感染経路に応じて標準予防策へ飛沫予防策を追加する。

Q050 6-2 医療安全 / 感染管理 [難易度:標準]
肺結核が疑われる患者への対応として最も適切なものはどれか。
ア. 通常の接触予防策だけで十分である
イ. 空気感染対策を行い、適切な呼吸用防護具を使用する
ウ. マスクなしで咳嗽訓練を行う
エ. 感染対策担当者への確認は不要である

正答：イ 空気感染対策を行い、適切な呼吸用防護具を使用する
ア × 空気感染対策が必要である。
イ ○ 結核などでは空気感染対策が必要で、病室環境と呼吸用防護具を適切に用いる。
ウ × 曝露リスクが高い。
エ × 施設の隔離・移送方針を確認する。
総合解説：結核などでは空気感染対策が必要で、病室環境と呼吸用防護具を適切に用いる。

Q051 6-2 医療安全 / 感染管理 [難易度:基礎]
個人防護具を脱ぐ際に最も重要なのはどれか。
ア. 汚染した前面を素手で触る
イ. PPEを病院内で再利用する
ウ. 汚染面へ触れないよう順序に注意し、脱衣後に手指衛生を行う
エ. 脱衣後は手指衛生不要である

正答：ウ 汚染面へ触れないよう順序に注意し、脱衣後に手指衛生を行う
ア × 自己汚染につながる。
イ × 使い捨て品は適切に廃棄する。
ウ ○ PPEは着用だけでなく脱衣時の自己汚染防止が重要である。
エ × 必要である。
総合解説：PPEは着用だけでなく脱衣時の自己汚染防止が重要である。

Q052 6-2 医療安全 / 感染管理 [難易度:標準]
共用の歩行器・血圧計の感染管理として最も適切なのはどれか。
ア. 目に見える汚れがなければ永久に清掃不要である
イ. 患者ごとの接触部位は考慮しない
ウ. 清掃用具自体の管理は不要である
エ. 患者間で必要な清拭・消毒を行い、施設手順に従う

正答：エ 患者間で必要な清拭・消毒を行い、施設手順に従う
ア × 微生物汚染は目視できない。
イ × 高頻度接触面は適切に清拭する。
ウ × 汚染拡大を防ぐ管理が必要である。
エ ○ リハビリ機器は多患者が触れるため、環境感染対策の重要な対象となる。
総合解説：リハビリ機器は多患者が触れるため、環境感染対策の重要な対象となる。

Q053 6-2 医療安全 / 感染管理 [難易度:標準]

同一病棟で同じ感染症患者在短期間に複数発生した。最も適切なのはどれか。

ア. アウトブレイクを疑い、感染対策部門へ速やかに共有し組織的対応を行う

イ. 偶然として記録しない

ウ. 各療法士が別々に対応し情報共有しない

エ. 患者の責任として隔離だけ行う

正答：ア アウトブレイクを疑い、感染対策部門へ速やかに共有し組織的対応を行う

ア ○ 院内感染は早期検知と組織横断的な対応が重要である。

イ × 集積を早期に捉える必要がある。

ウ × 組織的感染対策が必要である。

エ × 感染経路分析と拡大防止策が必要である。

総合解説：院内感染は早期検知と組織横断的な対応が重要である。

Q054 6-2 医療安全 / 感染管理 [難易度:基礎]

針刺し・血液曝露が起きた場合に最も適切なのはどれか。

ア. 小さな傷なら報告しない

イ. 直ちに洗浄等の初期処置を行い、施設手順に従って速やかに報告・曝露評価を受ける

ウ. 創部を強く絞り続けるだけでよい

エ. 翌月まで様子を見る

正答：イ 直ちに洗浄等の初期処置を行い、施設手順に従って速やかに報告・曝露評価を受ける

ア × 感染リスク評価が必要である。

イ ○ 職業曝露は隠さず速やかに報告し、感染源と曝露状況に応じて対応する。

ウ × 標準化された曝露後対応が必要である。

エ × 必要な曝露後予防には時間が重要な場合がある。

総合解説：職業曝露は隠さず速やかに報告し、感染源と曝露状況に応じて対応する。

Q055 6-2 医療安全 / 事故対応 [難易度:応用]
患者が歩行訓練中に転倒した直後の対応として最も適切なものはどれか。
ア. 先に事故報告書を完成させる
イ. すぐ立たせて歩けるか試す
ウ. まず患者の意識・呼吸・循環・外傷を確認し、必要な救急対応と報告を行う
エ. 転倒を隠して訓練を終了する

正答：ウ まず患者の意識・呼吸・循環・外傷を確認し、必要な救急対応と報告を行う
ア × 患者の救命・状態確認が最優先である。
イ × 骨折等を悪化させる可能性がある。
ウ ○ 事故対応は患者安全確保→必要な治療→報告・記録・分析の順に進める。
エ × 適切な報告と評価が必要である。
総合解説：事故対応は患者安全確保→必要な治療→報告・記録・分析の順に進める。

Q056 6-2 医療安全 / 事故対応 [難易度:標準]
医療事故発生時の院内報告として最も適切なものはどれか。
ア. 重大性を自己判断して黙る
イ. 推測を事実として報告する
ウ. 同僚だけに口頭で話して終える
エ. 事実を速やかに上司・責任者へ報告し、定められた経路で共有する

正答：エ 事実を速やかに上司・責任者へ報告し、定められた経路で共有する
ア × 組織的対応を遅らせる。
イ × 事実と推測を区別する。
ウ × 正式な報告経路が必要である。
エ ○ 初動では迅速かつ正確な報告が重要である。
総合解説：初動では迅速かつ正確な報告が重要である。

Q057 6-2 医療安全 / 事故対応 [難易度:基礎]
事故後の診療記録として最も適切なものはどれか。
ア. 発生時刻、状況、患者状態、実施した対応を客観的に記録する
イ. 責任回避のため内容を書き換える
ウ. 推測や感情だけを書く
エ. 事故が起きた部分だけ記録を消す

正答：ア 発生時刻、状況、患者状態、実施した対応を客観的に記録する
ア ○ 事故後記録は時間経過と客観的事実が分かるように残す。
イ × 記録改ざんは重大な問題である。
ウ × 客観的事実を中心に記録する。
エ × 診療記録は適切に保存する。
総合解説：事故後記録は時間経過と客観的事実が分かるように残す。

Q058 6-2 医療安全 / 事故対応 [難易度:標準]
事故後の患者・家族への説明として最も適切なものはどれか。
ア. 推測を断定して説明する
イ. 確認できた事実と現在の対応を誠実に説明し、不明点は不明と区別する
ウ. 事故の存在自体を隠す
エ. 関係職員が別々の内容を説明する

正答：イ 確認できた事実と現在の対応を誠実に説明し、不明点は不明と区別する
ア × 誤情報となる。
イ ○ 事故後説明では誠実さ、事実性、一貫性が重要である。
ウ × 信頼を損ない適切な対応に反する。
エ × 組織として説明内容を整理する必要がある。
総合解説：事故後説明では誠実さ、事実性、一貫性が重要である。

Q059 6-2 医療安全 / 事故対応 [難易度:応用]
重大事故後の対応として適切なのはどれか。
ア. 原因究明前に全て廃棄する
イ. 記録を後から都合よく修正する
ウ. 救命に支障しない範囲で機器設定や使用物品など原因分析に必要な情報を保全する
エ. 患者対応より証拠保存を優先する

正答：ウ 救命に支障しない範囲で機器設定や使用物品など原因分析に必要な情報を保全する
ア × 重要情報が失われる。
イ × 正確な分析を妨げる。
ウ ○ 重大事故では患者対応を最優先にしつつ原因分析に必要な情報を保全する。
エ × 患者安全が最優先である。
総合解説：重大事故では患者対応を最優先にしつつ原因分析に必要な情報を保全する。

Q060 6-2 医療安全 / 事故対応 [難易度:標準]
事故原因分析として最も適切なのはどれか。
ア. 最後に触れた職員だけを原因とする
イ. 事故は偶然なので分析しない
ウ. 患者要因だけを原因とする
エ. 個人の行動だけでなく、手順、環境、機器、情報共有、組織要因も検討する

正答：エ 個人の行動だけでなく、手順、環境、機器、情報共有、組織要因も検討する
ア × 背景要因を見逃す。
イ × 再発防止の機会を失う。
ウ × システム要因も検討する。
エ ○ 再発防止には根本原因を多面的に分析する。
総合解説：再発防止には根本原因を多面的に分析する。

Q061 6-2 医療安全 / 事故対応 [難易度:基礎]
事故後の再発防止策として最も適切なものはどれか。
ア. 原因分析に基づき実行可能な対策を導入し、その効果を再評価する
イ. 『注意する』だけで終了する
ウ. 対策を導入したら評価しない
エ. 現場へ知らせず管理者だけが保管する

正答：ア 原因分析に基づき実行可能な対策を導入し、その効果を再評価する
ア ○ 安全改善は対策立案→実施→評価→修正の循環で行う。
イ × 具体的なシステム対策が必要である。
ウ × 新たな問題や実効性を確認する。
エ × 周知・実施されなければ効果がない。
総合解説：安全改善は対策立案→実施→評価→修正の循環で行う。

Q062 6-2 医療安全 / 事故対応 [難易度:標準]
制度対象の死亡事故が疑われる場合、理学療法士として最も適切なものはどれか。
ア. 自分で制度該当性を最終決定して外部へ直接報告する
イ. 事実を保全して速やかに管理者側へ報告し、院内調査に必要な情報提供へ協力する
ウ. 関係記録を削除する
エ. 同僚と口裏を合わせる

正答：イ 事実を保全して速やかに管理者側へ報告し、院内調査に必要な情報提供へ協力する
ア × 制度上の判断・報告は病院等の管理者が行う。
イ ○ 現場職員は正確な報告・記録と調査協力を行い、管理者が制度上の手続きを進める。
ウ × 調査を妨げる。
エ × 事実に基づく調査へ協力する必要がある。
総合解説：現場職員は正確な報告・記録と調査協力を行い、管理者が制度上の手続きを進める。

Q063 6-3 倫理 / 医療倫理 [難易度:標準]

理学療法士の倫理として最も適切なものはどれか。
ア. 治療効率を優先し本人の価値観は考慮しない
イ. 社会的地位で対応を変える
ウ. 全ての人の尊厳と権利を尊重する
エ. 専門職の都合を常に患者より優先する

正答：ウ 全ての人の尊厳と権利を尊重する
ア × 尊厳と自己決定を尊重する必要がある。
イ × 平等な対応に反する。
ウ ○ 日本理学療法士協会の倫理綱領は全ての人の尊厳と権利の尊重を掲げる。
エ × 患者中心の倫理に反する。
総合解説：日本理学療法士協会の倫理綱領は全ての人の尊厳と権利の尊重を掲げる。

Q064 6-3 倫理 / 医療倫理 [難易度:基礎]

倫理綱領に照らして最も適切なものはどれか。
ア. 費用を多く払う患者だけ丁寧に対応する
イ. 外国人患者は説明を省略する
ウ. 高齢者は本人の希望を聞かなくてよい
エ. 国籍、宗教、年齢、性別、社会的地位などにかかわらず平等に接する

正答：エ 国籍、宗教、年齢、性別、社会的地位などにかかわらず平等に接する
ア × 不当な差別的対応である。
イ × 理解支援を工夫する必要がある。
ウ × 年齢で自己決定を軽視してはならない。
エ ○ 専門職は個人属性による不当な差別を避け平等に対応する。
総合解説：専門職は個人属性による不当な差別を避け平等に対応する。

Q065 6-3 倫理 / 医療倫理 [難易度:応用]

医療倫理の善行原則に最も近い行動はどれか。

- ア. 患者にとって期待される利益を最大化するよう最善の介入を検討する
- イ. 患者の利益と無関係に自分の練習目的で手技を行う
- ウ. 害が予想されても説明せず実施する
- エ. 患者の希望を一切聞かない

正答：ア 患者にとって期待される利益を最大化するよう最善の介入を検討する

ア ○ 善行は患者の利益を増やすよう行動する倫理原則である。

イ × 患者利益が中心でない。

ウ × 無危害にも反する。

エ × 自律尊重を欠く。

総合解説：善行は患者の利益を増やすよう行動する倫理原則である。

Q066 6-3 倫理 / 医療倫理 [難易度:標準]

医療倫理の無危害原則に最も合うのはどれか。

- ア. 効果が不明でも危険な手技を無条件で試す
- イ. 利益より危険が大きい介入を避け、安全性を確認する
- ウ. 副作用情報を確認しない
- エ. 患者が希望すれば禁忌を無視する

正答：イ 利益より危険が大きい介入を避け、安全性を確認する

ア × 害を避ける原則に反する。

イ ○ 無危害は不必要な害を患者へ与えないことを求める。

ウ × 危険評価が必要である。

エ × 患者希望だけで重大な危険を正当化できない。

総合解説：無危害は不必要な害を患者へ与えないことを求める。

Q067 6-3 倫理 / 医療倫理 [難易度:基礎]
患者が十分理解したうえで提案された訓練を拒否した。最も適切なのはどれか。
ア. 同意なしに強制する
イ. 拒否したので診療を放棄する
ウ. 拒否理由を確認し、必要な説明を行ったうえで患者の意思を尊重し代替案を検討する
エ. 家族の希望だけで本人の拒否を無視する

正答：ウ 拒否理由を確認し、必要な説明を行ったうえで患者の意思を尊重し代替案を検討する
ア × 自律尊重に反する。
イ × 代替案や目標調整を検討する。
ウ ○ 自律尊重は十分な情報を得た患者の選択を尊重することを意味する。
エ × 判断能力がある本人の意思を尊重する。
総合解説：自律尊重は十分な情報を得た患者の選択を尊重することを意味する。

Q068 6-3 倫理 / 医療倫理 [難易度:標準]
医療倫理の正義原則に最も適切なのはどれか。
ア. 知人を常に優先する
イ. 社会的地位の低い患者にはリハを提供しない
ウ. 医学的必要性を考えず先着順だけで全て決める
エ. 限られた医療資源を合理的で公平な基準により配分する

正答：エ 限られた医療資源を合理的で公平な基準により配分する
ア × 公平性を欠く。
イ × 差別的である。
ウ × 状況に応じ公平な基準が必要である。
エ ○ 正義は公平な扱いと資源配分に関する倫理原則である。
総合解説：正義は公平な扱いと資源配分に関する倫理原則である。

Q069 6-3 倫理 / 医療倫理 [難易度:応用]
同僚から担当外患者の病状を興味本位で尋ねられた。最も適切なのはどれか。
ア. 業務上必要のない情報は共有しない
イ. 同じ病院の職員なら全て話す
ウ. 匿名なら詳細なSNS投稿を行う
エ. 有名人なら公益性があるとして話す

正答：ア 業務上必要のない情報は共有しない
ア ○ 秘密保持は法的義務であると同時に専門職倫理の基本である。
イ × 職員であっても必要性のない情報共有は不適切である。
ウ × 再識別可能性もあり不適切である。
エ × 職業上の秘密保持義務がある。
総合解説：秘密保持は法的義務であると同時に専門職倫理の基本である。

Q070 6-3 倫理 / 医療倫理 [難易度:標準]
理学療法士の専門職倫理として最も適切なのはどれか。
ア. 免許取得後は学習不要である
イ. 生涯にわたり知識・技術を研鑽し、根拠を更新する
ウ. 古い経験だけを常に優先する
エ. 分からないことも分かったふりをする

正答：イ 生涯にわたり知識・技術を研鑽し、根拠を更新する
ア × 医療は変化するため継続学習が必要である。
イ ○ 倫理綱領は専門職として生涯にわたる研鑽を求めている。
ウ × 最新の根拠も確認する。
エ × 専門的限界を認識し相談する。
総合解説：倫理綱領は専門職として生涯にわたる研鑽を求めている。

Q071 6-3 倫理 / 医療倫理 [難易度:基礎]
経験のない高難度手技を患者から強く希望された。最も適切なのはどれか。
ア. 希望されたので未経験でも独力で実施する
イ. 分からないことを隠して実施する
ウ. 自分の能力範囲を認識し、必要なら適切な専門職へ相談・紹介する
エ. 患者を責めて終了する

正答：ウ 自分の能力範囲を認識し、必要なら適切な専門職へ相談・紹介する
ア × 患者安全を損なう。
イ × 誠実さに反する。
ウ ○ 専門職は自己の能力限界を認識し、必要に応じて連携する責任がある。
エ × 適切な支援へつなぐ。
総合解説：専門職は自己の能力限界を認識し、必要に応じて連携する責任がある。

Q072 6-3 倫理 / 医療倫理 [難易度:標準]
患者から高額な現金を個人的に渡したいと言われた。最も適切なのはどれか。
ア. 感謝の気持ちなら金額に関係なく受け取る
イ. 秘密にすれば受け取ってよい
ウ. 受け取る代わりに治療を優先する
エ. 施設規程と倫理綱領に従い、不当な収受を行わない

正答：エ 施設規程と倫理綱領に従い、不当な収受を行わない
ア × 不当収受につながる。
イ × 倫理上不適切である。
ウ × 公平性にも反する。
エ ○ 倫理綱領は不当な要求・収受を行わないことを定める。
総合解説：倫理綱領は不当な要求・収受を行わないことを定める。

Q073 6-3 倫理 / 医療倫理 [難易度:標準]

特定の福祉用具会社から紹介料を受け取り、その製品だけを患者へ勧める行為の問題として最も適切なのはどれか。

- ア. 患者利益より私的利益が判断へ影響する利益相反の問題がある
- イ. 患者に説明しなければ問題ない
- ウ. 高額商品なら倫理的である
- エ. 専門職は利益相反を考慮する必要がない

正答：ア 患者利益より私的利益が判断へ影響する利益相反の問題がある

ア ○ 利益相反は開示・管理し、患者の最善利益を優先する。

イ × 透明性と患者利益が重要である。

ウ × 価格だけで倫理性は決まらない。

エ × 専門的判断への影響を管理する必要がある。

総合解説：利益相反は開示・管理し、患者の最善利益を優先する。

Q074 6-3 倫理 / 医療倫理 [難易度:基礎]

患者の安全と自己決定が衝突する場面で最も適切なのはどれか。

- ア. 安全だけを理由に本人の意思を常に無視する
- イ. 患者の意思、判断能力、利益・害、代替案を整理し、多職種で検討して記録する
- ウ. 患者希望だけで重大な危険を無視する
- エ. 葛藤があるので誰も判断しない

正答：イ 患者の意思、判断能力、利益・害、代替案を整理し、多職種で検討して記録する

ア × 自律尊重との調整が必要である。

イ ○ 倫理的問題では複数原則を整理し、患者中心に合意形成を進める。

ウ × 無危害・善行も考慮する。

エ × 倫理的検討と意思決定が必要である。

総合解説：倫理的問題では複数原則を整理し、患者中心に合意形成を進める。

Q075 6-3 倫理 / 説明と同意 [難易度:応用]
インフォームド・コンセントの基本として最も適切なのはどれか。
ア. 署名だけ得れば説明は不要である
イ. 医療者が最善と思えば患者同意は不要である
ウ. 必要な情報を理解できるよう説明し、患者が自由意思で選択・同意すること
エ. 家族だけに説明すれば常に十分である

正答：ウ 必要な情報を理解できるよう説明し、患者が自由意思で選択・同意すること
ア × 理解と自由意思が重要である。
イ × 原則として患者の自己決定を尊重する。
ウ ○ インフォームド・コンセントは単なる書面署名ではなく説明・理解・自発的選択の過程である。
エ × 判断能力のある本人への説明が基本である。
総合解説：インフォームド・コンセントは単なる書面署名ではなく説明・理解・自発的選択の過程である。

Q076 6-3 倫理 / 説明と同意 [難易度:標準]
理学療法開始前の説明として最も適切なのはどれか。
ア. 効果だけ説明しリスクは隠す
イ. 専門用語だけで短時間に説明する
ウ. 治療を断る選択肢は伝えない
エ. 目的、方法、期待される効果、主なリスク、代替方法などを理解可能な言葉で説明する

正答：エ 目的、方法、期待される効果、主なリスク、代替方法などを理解可能な言葉で説明する
ア × 十分な意思決定情報にならない。
イ × 患者理解を確認する必要がある。
ウ × 自由意思を損なう。
エ ○ 患者が選択できるよう利益・不利益・代替案をバランスよく伝える。
総合解説：患者が選択できるよう利益・不利益・代替案をバランスよく伝える。

Q077 6-3 倫理 / 説明と同意 [難易度:基礎]
説明後の対応として最も適切なのはどれか。
ア. 患者自身の言葉で理解内容を確認し、質問の機会を設ける
イ. うなずいたので理解したと決めつける
ウ. 質問を禁止する
エ. 理解できない患者を責める

正答：ア 患者自身の言葉で理解内容を確認し、質問の機会を設ける
ア ○ 説明は伝えることなく、相手が理解できたか確認して成立する。
イ × 形式的同意を避け理解を確認する。
ウ × 納得のため質問機会が必要である。
エ × 説明方法を調整する。
総合解説：説明は伝えることなく、相手が理解できたか確認して成立する。

Q078 6-3 倫理 / 説明と同意 [難易度:標準]
患者が『断ると先生に嫌われますか』と不安を示した。最も適切なのはどれか。
ア. 断れば治療を全て打ち切ると伝える
イ. 同意しない選択も可能で、不利益な扱いをしないことを説明する
ウ. その場ですぐ決めるよう迫る
エ. 家族に強制してもらう

正答：イ 同意しない選択も可能で、不利益な扱いをしないことを説明する
ア × 不当な圧力となる。
イ ○ 同意は威圧や不当な誘導のない自由意思に基づく必要がある。
ウ × 自由な意思決定を妨げる。
エ × 本人の自由意思を損なう。
総合解説：同意は威圧や不当な誘導のない自由意思に基づく必要がある。

Q079 6-3 倫理 / 説明と同意 [難易度:応用]
一度同意した理学療法について患者が中止を希望した。最も適切なのはどれか。
ア. 一度署名したら撤回できない
イ. 拒否を無視して継続する
ウ. 理由と影響を説明し、意思を確認したうえで同意撤回を尊重する
エ. 患者を非難する

正答：ウ 理由と影響を説明し、意思を確認したうえで同意撤回を尊重する
ア × 同意は後から撤回できる。
イ × 自己決定に反する。
ウ ○ 同意は継続的な過程であり、患者は意思を変更できる。
エ × 意思決定を尊重する。
総合解説：同意は継続的な過程であり、患者は意思を変更できる。

Q080 6-3 倫理 / 説明と同意 [難易度:標準]
患者の判断能力が低下している可能性がある場合に最も適切なのはどれか。
ア. 認知症の診断だけで本人への説明を全て省略する
イ. 家族だけの希望を無条件で優先する
ウ. 説明を一切行わない
エ. 理解・比較・意思表明能力を評価し、可能な限り本人を意思決定へ参加させる

正答：エ 理解・比較・意思表明能力を評価し、可能な限り本人を意思決定へ参加させる
ア × 能力は個別・課題ごとに評価する。
イ × 本人の意思・推定意思を可能な限り尊重する。
ウ × 理解しやすい方法を工夫する。
エ ○ 判断能力は一律ではなく、説明方法や支援によって意思決定可能性が高まることもある。
総合解説：判断能力は一律ではなく、説明方法や支援によって意思決定可能性が高まることもある。

Q081 6-3 倫理 / 説明と同意 [難易度:基礎]
患者本人が意思表示できない場合の意思決定として最も適切なのはどれか。
ア. 本人の事前意思や価値観を踏まえ、家族・医療チームで本人の利益を中心に検討する
イ. 家族の都合だけで決める
ウ. 医療者一人だけで決める
エ. 本人の過去の意思は無視する

正答：ア 本人の事前意思や価値観を踏まえ、家族・医療チームで本人の利益を中心に検討する
ア ○ 意思能力がない場合も本人中心の代理意思決定を目指す。
イ × 本人の価値観と最善利益が中心である。
ウ × 必要に応じチームで検討する。
エ × 推定意思を尊重する材料となる。
総合解説：意思能力がない場合も本人中心の代理意思決定を目指す。

Q082 6-3 倫理 / 説明と同意 [難易度:標準]
意識不明で生命危機にある患者に緊急処置が必要だが本人同意を得られない。最も適切な考え方はどれか。
ア. 同意が取れないので一切対応しない
イ. 生命・身体保護のため必要な緊急対応を行い、可能になり次第本人・家族へ説明する
ウ. 必要性を超える処置も自由に行える
エ. 後の説明は不要である

正答：イ 生命・身体保護のため必要な緊急対応を行い、可能になり次第本人・家族へ説明する
ア × 救命に必要な対応が優先される。
イ ○ 緊急時には同意取得困難という例外があるが、必要最小限性と事後説明が重要である。
ウ × 緊急性と必要性の範囲で行う。
エ × 可能になり次第説明する。
総合解説：緊急時には同意取得困難という例外があるが、必要最小限性と事後説明が重要である。

Q083 6-3 倫理 / 説明と同意 [難易度:標準]
説明と同意の記録として最も適切なのはどれか。
ア. 署名だけあれば説明内容は記録不要である
イ. 同意しなかった場合は記録しない
ウ. 説明した内容、患者の理解・質問、意思決定を診療記録へ残す
エ. 後日記憶だけでまとめて記録する

正答：ウ 説明した内容、患者の理解・質問、意思決定を診療記録へ残す
ア × 意思決定過程の記録が重要である。
イ × 拒否・保留も重要な臨床情報である。
ウ ○ 説明同意の記録は患者の意思と医療者の対応を共有する役割を持つ。
エ × 適時・正確な記録が望ましい。
総合解説：説明同意の記録は患者の意思と医療者の対応を共有する役割を持つ。

Q084 6-3 倫理 / 説明と同意 [難易度:基礎]
治療計画が大幅に変更された場合に最も適切なのはどれか。
ア. 最初に同意済みなので変更後の説明は不要である
イ. 医療者間で決めれば患者には知らせない
ウ. 変更理由を隠す
エ. 新たな目的・方法・リスク等を再説明し、患者の意思を再確認する

正答：エ 新たな目的・方法・リスク等を再説明し、患者の意思を再確認する
ア × 重要な変更では再説明が必要である。
イ × 患者の意思決定に関わる。
ウ × 誠実な説明が必要である。
エ ○ インフォームド・コンセントは一回限りではなく、治療経過に応じ更新される。
総合解説：インフォームド・コンセントは一回限りではなく、治療経過に応じ更新される。

Q085 6-3 倫理 / 多職種連携 [難易度:応用]
チーム医療の基本として最も適切なものはどれか。
ア. 各職種が専門性を活かし、患者・家族と目標と情報を共有して協働する
イ. 職種ごとに独立し情報を共有しない
ウ. 医師以外は意見を述べない
エ. 患者・家族はチームに含めない

正答：ア 各職種が専門性を活かし、患者・家族と目標と情報を共有して協働する
ア ○ 厚労省は専門性を活用し目的・情報を共有してチームとして協働することを示している。
イ × 連携が成立しない。
ウ × 各職種の専門性を活用する。
エ × 患者中心のチーム医療では参加が重要である。
総合解説：厚労省は専門性を活用し目的・情報を共有してチームとして協働することを示している。

Q086 6-3 倫理 / 多職種連携 [難易度:標準]
多職種連携で最も適切なものはどれか。
ア. 全ての業務を自職種だけで行う
イ. 自職種と他職種の役割・専門性を理解し、必要時に相談・依頼する
ウ. 他職種の評価を無視する
エ. 役割が重なる部分は情報共有しない

正答：イ 自職種と他職種の役割・専門性を理解し、必要時に相談・依頼する
ア × 専門性を活かさない。
イ ○ 多職種連携には相互理解と適切な役割分担が必要である。
ウ × 患者像を統合できない。
エ × 役割調整が必要である。
総合解説：多職種連携には相互理解と適切な役割分担が必要である。

Q087 6-3 倫理 / 多職種連携 [難易度:基礎]
カンファレンスで理学療法士が共有すべき内容として最も適切なのはどれか。
ア. 専門用語だけで他職種に伝わらない説明をする
イ. 問題点だけ伝え対策は共有しない
ウ. 移動能力、介助量、運動時リスク、退院後生活に関わる具体的情報
エ. 患者の希望は共有しない

正答：ウ 移動能力、介助量、運動時リスク、退院後生活に関わる具体的情報
ア × 共通理解できる表現が必要である。
イ × 具体的支援方法を共有する。
ウ ○ 多職種連携では他職種が行動に移せる具体的情報を共有する。
エ × チーム目標に重要である。
総合解説：多職種連携では他職種が行動に移せる具体的情報を共有する。

Q088 6-3 倫理 / 多職種連携 [難易度:標準]
緊急性のある情報伝達で最も適切なのはどれか。
ア. 結論を最後まで言わず長い経過だけ話す
イ. 異常値だけ伝え患者状況を説明しない
ウ. 緊急時も記録だけ残して口頭報告しない
エ. 状況・背景・評価・提案を簡潔に整理して伝える

正答：エ 状況・背景・評価・提案を簡潔に整理して伝える
ア × 緊急度が伝わりにくい。
イ × 文脈が不足する。
ウ × 即時共有が必要な場合がある。
エ ○ 構造化コミュニケーションは重要情報の欠落を減らす。
総合解説：構造化コミュニケーションは重要情報の欠落を減らす。

Q089 6-3 倫理 / 多職種連携 [難易度:応用]
自宅退院予定の患者への多職種連携として最も適切なのはどれか。
ア. 医師・看護師・リハ職・MSW・ケアマネジャー等で医療、ADL、介護、環境を統合する
イ. 歩行能力だけで退院可否を決める
ウ. 退院当日に初めて連携する
エ. 家族の介護力は評価しない

正答：ア 医師・看護師・リハ職・MSW・ケアマネジャー等で医療、ADL、介護、環境を統合する
ア ○ 退院支援は複数の生活課題を統合する多職種協働が必要である。
イ × 医療・介護・住環境等も必要である。
ウ × 早期から支援計画を立てる。
エ × 在宅生活継続に重要である。
総合解説：退院支援は複数の生活課題を統合する多職種協働が必要である。

Q090 6-3 倫理 / 多職種連携 [難易度:標準]
チーム内で治療方針の意見が分かれた場合に最も適切なのはどれか。
ア. 職位が低い職種は発言しない
イ. 患者目標と根拠を共有し、相互の専門的理由を確認して合意形成を図る
ウ. 対立を避けるため情報を隠す
エ. 患者の希望を議論から除外する

正答：イ 患者目標と根拠を共有し、相互の専門的理由を確認して合意形成を図る
ア × 安全で質の高い医療には相互発言が重要である。
イ ○ 意見対立は専門性の違いから生じ得るため、患者中心に根拠を共有して調整する。
ウ × 問題解決を妨げる。
エ × 患者中心の目標が必要である。
総合解説：意見対立は専門性の違いから生じ得るため、患者中心に根拠を共有して調整する。

Q091 6-3 倫理 / 多職種連携 [難易度:基礎]
看護師から『今日は発熱と血圧低下がある』と情報共有を受けた。最も適切なのはどれか。
ア. 昨日の計画どおり必ず実施する
イ. 看護師の情報は理学療法に関係ない
ウ. 当日の理学療法計画を再評価し、必要なら医師等へ相談して負荷を変更・中止する
エ. 発熱を下げる薬を理学療法士が処方する

正答：ウ 当日の理学療法計画を再評価し、必要なら医師等へ相談して負荷を変更・中止する
ア × 全身状態の変化を反映していない。
イ × 重要な安全情報である。
ウ ○ 多職種情報は理学療法の安全な適応判断へ活用する。
エ × 処方権限はない。
総合解説：多職種情報は理学療法の安全な適応判断へ活用する。

Q092 6-3 倫理 / 多職種連携 [難易度:標準]
入院から在宅へ移行する患者の情報連携として最も適切なのはどれか。
ア. 個人情報保護のため一切共有しない
イ. 本人に関係なく全診療情報を無制限に送る
ウ. 退院後の支援者へ介助方法を伝えない
エ. 本人同意等を踏まえ、必要な医療・生活機能情報を地域支援者へ引き継ぐ

正答：エ 本人同意等を踏まえ、必要な医療・生活機能情報を地域支援者へ引き継ぐ
ア × 適法・適切な範囲で必要情報を共有する。
イ × 必要性と範囲を考える。
ウ × 継続支援に必要な情報である。
エ ○ 個人情報保護と連携は対立ではなく、本人の意思と必要性を踏まえて両立させる。
総合解説：個人情報保護と連携は対立ではなく、本人の意思と必要性を踏まえて両立させる。

Q093 6-4 記録・情報 / 診療記録 [難易度:基礎]

理学療法の診療記録を作成する主な目的として最も適切なものはどれか。

ア. 実施した評価・介入・患者反応を記録し、継続的で安全な医療と情報共有に役立つ

イ. 療法士個人の記憶だけを補助する私的メモにする

ウ. 患者に見せないため専門用語だけで埋める

エ. 実施していない治療も予定として実施済みに記載する

正答：ア 実施した評価・介入・患者反応を記録し、継続的で安全な医療と情報共有に役立つ

ア ○ 診療記録は実施内容と臨床判断を残し、継続診療・チーム共有・説明責任に役立つ。

イ × 診療記録は医療提供の正式な記録として扱われる。

ウ × 正確で理解可能な記録が求められる。

エ × 事実と異なる記載は不適切である。

総合解説：記録は単なる作業記録ではなく、評価・判断・介入・反応を追跡できる形で残す。

Q094 6-4 記録・情報 / 診療記録 [難易度:標準]

診療記録の書き方として最も適切なものはどれか。

ア. 『なんとなく元気がない』だけを記録する

イ. 観察した事実と自分の評価・解釈を区別して記載する

ウ. 患者の人格を否定する表現を用いる

エ. 推測を確定した事実として記載する

正答：イ 観察した事実と自分の評価・解釈を区別して記載する

ア × 曖昧で再現性が低い。

イ ○ 客観的所見と臨床判断を区別すると、他職種が経過を追いやしく誤解も減る。

ウ × 医療記録として不適切である。

エ × 事実と推測を区別する必要がある。

総合解説：記録では測定値・観察所見・患者発言などの事実と評価を明確に分ける。

Q095 6-4 記録・情報 / 診療記録 [難易度:標準]
理学療法実施後の記録として最も適切なものはどれか。
ア. 数週間後に記憶だけでまとめて記録する
イ. 異常反応があった日だけ記録する
ウ. 実施内容と患者反応を可能な限り速やかに記録する
エ. 退院日に全期間分をまとめて作成する

正答：ウ 実施内容と患者反応を可能な限り速やかに記録する
ア × 正確性が低下する。
イ × 通常の診療内容も継続的に記録する。
ウ ○ 時間が経つほど記憶が不正確になりやすく、診療継続にも支障が出るため適時記録が重要である。
エ × 適時性を欠き、チーム共有にも使えない。
総合解説：診療記録は適時に作成し、当日の状態変化が次の担当者へ伝わるようにする。

Q096 6-4 記録・情報 / 診療記録 [難易度:応用]
診療記録の訂正方法として最も適切なものはどれか。
ア. 元の記載が分からないよう完全に消去する
イ. 他人のIDで訂正する
ウ. 誤記に気づいてもそのまま放置する
エ. 訂正した者、内容、日時が分かる方法で訂正する

正答：エ 訂正した者、内容、日時が分かる方法で訂正する
ア × 改ざん防止の観点から不適切である。
イ × 訂正責任者が不明確になる。
ウ × 正確性確保のため適切に訂正する。
エ ○ 厚生労働省の指針では診療記録の訂正は、訂正者・内容・日時等が分かるように行うこととされる。
総合解説：電子記録でも紙記録でも、変更履歴と責任の所在を追えることが重要である。

Q097 6-4 記録・情報 / 診療記録 [難易度:標準]
診療記録の取扱いとして不適切なのはどれか。
ア. 事故後に責任回避のため元記録を削除し、別内容へ書き換える
イ. 誤記を所定手順で訂正し履歴を残す
ウ. 追記日時と追記者が分かる形で情報を追加する
エ. 患者状態の変化を新たな記録として追加する

正答：ア 事故後に責任回避のため元記録を削除し、別内容へ書き換える
ア ○ 診療記録の字句等を不当に変える改ざんは行ってはならない。
イ × 適切な訂正方法である。
ウ × 責任の所在が明確になる。
エ × 経過を残す適切な方法である。
総合解説：記録の真正性を保つには、元情報と変更履歴を追跡できる運用が必要である。

Q098 6-4 記録・情報 / 診療記録 [難易度:基礎]
患者が『歩くと右膝がズキズキする』と訴えた。記録として最も適切なものはどれか。
ア. 『気のせい』と記載する
イ. 患者の訴えとして疼痛部位・誘発動作・程度などを具体的に記載する
ウ. 患者発言は主観的なので記録しない
エ. 痛みの場所を確認せず『全身痛』と書く

正答：イ 患者の訴えとして疼痛部位・誘発動作・程度などを具体的に記載する
ア × 患者訴えを根拠なく否定している。
イ ○ 患者発言は主観的情報として重要であり、必要に応じて評価値と対応づける。
ウ × 症状経過の重要な情報である。
エ × 実際の情報と異なる。
総合解説：主観情報も臨床判断に重要で、客観所見と組み合わせて記録する。

Q099 6-4 記録・情報 / 診療記録 [難易度:標準]
歩行練習後に血圧低下とめまいが出現した。記録として最も適切なのはどれか。
ア.『調子不良』だけ記載する
イ.中止した事実は書かず成功した部分だけ記録する
ウ.実施した負荷、症状、バイタル変化、中止判断、その後の対応を時系列で記録する
エ.数値は不要なので感想だけ書く

正答：ウ 実施した負荷、症状、バイタル変化、中止判断、その後の対応を時系列で記録する
ア × 重要な経過が分からない。
イ × 診療経過を正確に反映しない。
ウ ○ 異常反応が起きた場合は原因分析と次回の安全判断に使える具体的記録が必要である。
エ × バイタル等の客観情報が重要である。
総合解説：異常時の記録は、何をして何が起き、どう判断し、何を行ったかが追える形にする。

Q100 6-4 記録・情報 / 診療記録 [難易度:応用]
診療記録で目標と治療計画を記載する意義として最も適切なのはどれか。
ア.目標は療法士だけが知っていればよい
イ.計画は初回に一度書けば状態変化後も修正不要である
ウ.治療計画と評価結果は関連づけなくてよい
エ.評価結果から導いた方針と、今後何を目指して介入するかを共有できる

正答：エ 評価結果から導いた方針と、今後何を目指して介入するかを共有できる
ア × チーム・患者との共有が重要である。
イ × 再評価に応じて更新する。
ウ × 評価に基づく計画が必要である。
エ ○ 目標と計画は評価・介入・再評価をつなぐ軸となる。
総合解説：診療記録は評価から目標・介入・再評価まで一貫性が分かる形にする。

Q101 6-4 記録・情報 / 診療記録 [難易度:基礎]

診療記録で略語を使用する際の考え方として最も適切なのはどれか。
ア. 施設で標準化された、誤解の少ない略語を必要な範囲で使用する
イ. 自分だけが分かる略語を自由に作る
ウ. 略語は多いほど記録の質が高い
エ. 同じ略語を複数の意味で使う

正答：ア 施設で標準化された、誤解の少ない略語を必要な範囲で使用する
ア ○ 独自略語や多義的略語は誤解や医療事故につながるため標準化が重要である。
イ × 他者が理解できず危険である。
ウ × 可読性と正確性が優先される。
エ × 誤解を生じる。
総合解説：記録は速さだけでなく、他の医療者が同じ意味で理解できることが重要である。

Q102 6-4 記録・情報 / 診療記録 [難易度:標準]

患者から自分の理学療法経過について説明を求められた。最も適切なのはどれか。
ア. 記録は医療者だけのものなので一切説明しない
イ. 診療記録に基づき、評価結果や経過を理解しやすい言葉で説明する
ウ. 記録にない推測を確定事項として説明する
エ. 専門用語だけで説明し理解確認をしない

正答：イ 診療記録に基づき、評価結果や経過を理解しやすい言葉で説明する
ア × 診療情報提供の考え方に反する。
イ ○ 診療情報は患者理解を得やすい方法で提供することが求められる。
ウ × 正確性を欠く。
エ × 患者が理解できる説明が必要である。
総合解説：適切な記録は患者への説明の基礎にもなる。

Q103 6-4 記録・情報 / 情報管理 [難易度:基礎]
電子カルテのアクセス管理として最も適切なのはどれか。
ア. 全職員に管理者権限を与える
イ. 退職者のアカウントを残す
ウ. 業務上必要な範囲に応じて利用者ごとにアクセス権限を設定する
エ. 患者情報を扱わない職員にも全情報を閲覧可能にする

正答：ウ 業務上必要な範囲に応じて利用者ごとにアクセス権限を設定する
ア × 不要なアクセスや操作リスクが高まる。
イ × 不要となった権限は無効化する。
ウ ○ 医療情報システムでは必要最小限の権限付与が基本である。
エ × 目的に応じた権限管理が必要である。
総合解説：アクセス権限は職務と必要性に応じて付与・見直しを行う。

Q104 6-4 記録・情報 / 情報管理 [難易度:標準]
電子カルテのID・パスワード管理として最も適切なのはどれか。
ア. 忙しい時間帯は同じIDをチームで共有する
イ. パスワードを端末横へ貼る
ウ. 異動後も不要な権限をそのままにする
エ. 個人ごとの認証情報を使用し、他者と共有しない

正答：エ 個人ごとの認証情報を使用し、他者と共有しない
ア × 責任の所在が不明確になり不正アクセスの原因となる。
イ × 第三者利用の危険がある。
ウ × 権限は役割変更に応じて見直す。
エ ○ 誰が操作したか追跡できることは安全管理上重要である。
総合解説：個人認証と権限管理は医療情報の真正性・機密性を守る基本である。

Q105 6-4 記録・情報 / 情報管理 [難易度:標準]
電子カルテを開いたまま端末から離席する必要が生じた。最も適切なのはどれか。
ア. 画面ロックまたはログアウトしてから離席する
イ. 短時間なら開いたままでよい
ウ. 患者に画面監視を依頼する
エ. パスワードを周囲へ伝えておく

正答：ア 画面ロックまたはログアウトしてから離席する
ア ○ 無人端末からの不正閲覧・誤操作を防ぐ必要がある。
イ × 第三者が操作する可能性がある。
ウ × 情報管理責任を患者へ負わせるものではない。
エ × 不正利用を招く。
総合解説：物理的な端末管理も情報セキュリティの一部である。

Q106 6-4 記録・情報 / 情報管理 [難易度:応用]
患者情報を院外で確認する必要がある場合の対応として最も適切なのはどれか。
ア. 自分のスマートフォンへ患者一覧を自由に保存する
イ. 施設の情報セキュリティ 規程と承認された方法に従う
ウ. 個人メールへ送れば安全である
エ. SNSの非公開グループなら共有してよい

正答：イ 施設の情報セキュリティ 規程と承認された方法に従う
ア × 私物端末への無許可保存は漏えいリスクが高い。
イ ○ 医療情報の持出しや外部アクセスは漏えいリスクが高く、組織的管理が必要である。
ウ × 組織管理外の通信は不適切である。
エ × 業務用として承認された安全な手段を用いる。
総合解説：便利さより、組織が定めた安全な通信・保存方法を優先する。

Q107 6-4 記録・情報 / 情報管理 [難易度:標準]
リハビリ室の受付に患者一覧表が置かれている。最も適切な管理はどれか。
ア. 氏名だけなら誰に見えてもよい
イ. 患者が多い日は通路に掲示する
ウ. 来訪者から見えない位置に置き、必要時以外は適切に保管する
エ. 廃棄時はそのまま一般ごみに捨てる

正答：ウ 来訪者から見えない位置に置き、必要時以外は適切に保管する
ア × 氏名も個人情報である。
イ × 不特定多数が閲覧できる。
ウ ○ 紙媒体も個人情報であり、不要な閲覧を防ぐ管理が必要である。
エ × 復元困難な方法で適切に廃棄する必要がある。
総合解説：情報管理は電子データだけでなく紙・ホワイトボード・画面表示も対象となる。

Q108 6-4 記録・情報 / 情報管理 [難易度:基礎]
医療情報システムのバックアップの主な目的として最も適切なのはどれか。
ア. 情報を無制限に複製して誰でも閲覧できるようにする
イ. バックアップがあればアクセス制御は不要である
ウ. 一度バックアップすれば更新不要である
エ. 障害・災害・サイバー攻撃等でデータが失われた際に復旧できるようにする

正答：エ 障害・災害・サイバー攻撃等でデータが失われた際に復旧できるようにする
ア × 機密性を損なう。
イ × 別の安全管理策であり両方必要である。
ウ × 定期的なバックアップと復旧確認が必要である。
エ ○ 医療情報の可用性確保にはバックアップと復旧手順が重要である。
総合解説：バックアップは作るだけでなく、実際に復旧できるかを確認する運用が重要である。

Q109 6-4 記録・情報 / 情報管理 [難易度:標準]

院内端末にランサムウェア感染を疑う警告が表示された。最も適切なのはどれか。
ア. 施設の手順に従って直ちに情報システム担当等へ報告し、被害拡大防止措置を行う
イ. 警告を閉じて通常業務を続ける
ウ. 個人判断で不審ファイルを院内全員へ転送する
エ. 記録を隠すため端末を廃棄する

正答：ア 施設の手順に従って直ちに情報システム担当等へ報告し、被害拡大防止措置を行う
ア ○ 医療情報システムの異常は診療継続にも影響するため、個人判断で放置せず組織対応する。
イ × 感染拡大やデータ損失につながる。
ウ × 被害を広げる可能性がある。
エ × 正式なインシデント対応が必要である。
総合解説：サイバー事故も医療安全に直結するため、BCPを含む組織的対応が必要である。

Q110 6-4 記録・情報 / 情報管理 [難易度:応用]

患者の診療記録を教育用資料として利用する際に最も適切なのはどれか。
ア. 氏名を消せばどんな情報でも自由に院外公開できる
イ. 利用目的、院内規程、個人情報保護・倫理手続きを確認して使用する
ウ. 研修なら本人の権利は考慮しなくてよい
エ. 個人SNSへ症例を掲載する

正答：イ 利用目的、院内規程、個人情報保護・倫理手続きを確認して使用する
ア × 他情報との組合せで識別される可能性もある。
イ ○ 診療目的で得た情報を教育・研究へ用いる場合は、目的外利用や再識別リスクに注意する。
ウ × 教育目的でも適切な取扱いが必要である。
エ × 承認された教育利用とは異なる。
総合解説：教育・研究利用では診療目的とは別のルールが関わるため、組織手続きを確認する。

Q111 6-4 記録・情報 / 情報管理 [難易度:基礎]
患者資料を誤って別患者へ手渡したことに気づいた。最も適切なのはどれか。
ア. 相手が一人だけなら黙っておく
イ. 自分の判断で記録を削除して終える
ウ. 速やかに回収を試み、施設の報告手順に従って事実確認と漏えい対応を行う
エ. 患者同士の問題として扱う

正答：ウ 速やかに回収を試み、施設の報告手順に従って事実確認と漏えい対応を行う
ア × 組織として対応する必要がある。
イ × 事実確認・影響評価が必要である。
ウ ○ 個人情報漏えいは早期報告と拡大防止が重要である。
エ × 医療機関側の情報管理事故である。
総合解説：漏えい時は隠さず、回収・報告・影響評価・再発防止へつなげる。

Q112 6-4 記録・情報 / チーム共有 [難易度:標準]
多職種間で患者情報を共有する主な目的として最も適切なのはどれか。
ア. 各職種の記録を完全に別々にして互いに見ない
イ. 同じ評価を全職種が重複して行うため
ウ. 患者の希望を共有しないため
エ. 共通の目標とリスク認識を持ち、各職種の介入をつなげる

正答：エ 共通の目標とリスク認識を持ち、各職種の介入をつなげる
ア × 連携が分断される。
イ × 重複を減らし専門性を補完することが重要である。
ウ × 患者目標はチームで共有すべき重要情報である。
エ ○ チーム医療では目的と情報の共有が協働の前提となる。
総合解説：情報共有は単なる報告ではなく、共通目標のもとで役割を調整するために行う。

Q113 6-4 記録・情報 / チーム共有 [難易度:基礎]
チーム内で患者情報を共有する際に最も適切なのはどれか。
ア. 診療・ケアに必要な範囲で、関係する職種へ適切に共有する
イ. 同じ病院の職員なら誰にでも全情報を送る
ウ. 個人情報保護のため必要な情報も一切共有しない
エ. 患者の生活歴を興味本位で共有する

正答：ア 診療・ケアに必要な範囲で、関係する職種へ適切に共有する
ア ○ 医療連携に必要な情報共有と個人情報保護は両立させる。
イ × 業務上の必要性がない共有は不適切である。
ウ × 安全なチーム医療を妨げる。
エ × 診療上必要な範囲に限定する。
総合解説：共有範囲は患者利益と業務上の必要性から判断する。

Q114 6-4 記録・情報 / チーム共有 [難易度:標準]
脳卒中患者の退院前カンファレンスで理学療法士が優先して共有すべき内容はどれか。
ア. 筋力値だけを読み上げる
イ. 移動能力、介助量、転倒リスク、必要な福祉用具、退院後の生活目標
ウ. 患者の希望を省略する
エ. 専門用語だけで他職種に伝わらない説明をする

正答：イ 移動能力、介助量、転倒リスク、必要な福祉用具、退院後の生活目標
ア × 生活機能へどう影響するかの情報が不足する。
イ ○ 他職種が退院支援へ活用できる具体的な機能・リスク・生活情報を共有する。
ウ × 退院計画の中心となる情報である。
エ × 共通理解できる表現が必要である。
総合解説：専門的評価を生活上の意味へ翻訳して共有することが重要である。

Q115 6-4 記録・情報 / チーム共有 [難易度:標準]
夜間に転倒した患者を翌朝担当する。申し送りで最も優先して共有されるべき情報はどれか。
ア. 昨日の昼食内容だけ
イ. 一週間前の安定した歩行距離だけ
ウ. 転倒時状況、外傷評価、現在の症状、安静度・介助方法の変更
エ. 転倒したという事実だけで詳細は伝えない

正答：ウ 転倒時状況、外傷評価、現在の症状、安静度・介助方法の変更
ア × 安全判断との関連が低い。
イ × 現在の状態変化が優先される。
ウ ○ 直近の重大イベントと現在の安全条件が次の介入判断に直結する。
エ × 原因・外傷・対応情報が必要である。
総合解説：申し送りは『次の担当者が安全に行動できる情報』を優先する。

Q116 6-4 記録・情報 / チーム共有 [難易度:応用]
SBARを用いた報告でAが表すものとして最も適切なのはどれか。
ア. Action：実施済み処置だけ
イ. Address：患者住所
ウ. Agreement：家族の同意
エ. Assessment：自分が把握した評価・判断

正答：エ Assessment：自分が把握した評価・判断
ア × 標準的なAはAssessmentである。
イ × 報告フレームの要素ではない。
ウ × SBARのAではない。
エ ○ SBARはSituation、Background、Assessment、Recommendationで情報を整理する方法である。
総合解説：SBARは緊急報告や申し送りで情報の抜けを減らすために活用される。

Q117 6-4 記録・情報 / チーム共有 [難易度:標準]
電子カルテの安静度と口頭指示の内容が食い違っている。最も適切なのはどれか。
ア. 実施前に指示元へ確認し、最新の正式な指示を明確にする
イ. 都合のよい方を選ぶ
ウ. 昨日の指示を優先して確認しない
エ. 患者に決めてもらう

正答：ア 実施前に指示元へ確認し、最新の正式な指示を明確にする
ア ○ 矛盾した情報を自己解釈で処理すると事故につながる。
イ × 根拠のない選択は危険である。
ウ × 最新情報を確認する。
エ × 医療上の指示確認は医療者が行う。
総合解説：指示の不一致を見つけた時点で確認行動をとること自体が医療安全である。

Q118 6-4 記録・情報 / チーム共有 [難易度:基礎]
多職種で設定したりハビリテーション目標について最も適切なのはどれか。
ア. 医療者だけが知っていればよい
イ. 患者・家族にも理解できる形で共有し、希望や優先順位を確認する
ウ. 本人の希望と異なっても説明せず進める
エ. 各職種が別々の最終目標を設定する

正答：イ 患者・家族にも理解できる形で共有し、希望や優先順位を確認する
ア × 患者参加が欠ける。
イ ○ チーム医療は患者・家族とともに目標を形成することが重要である。
ウ × 自己決定を損なう。
エ × 共通目標が必要である。
総合解説：共有目標があることで各職種の介入が同じ生活目標へつながる。

Q119 6-4 記録・情報 / チーム共有 [難易度:標準]
自宅退院する患者の訪問リハ担当者へ引き継ぐ情報として最も適切なものはどれか。
ア. 院内でのMMT値だけ
イ. 個人的な感想だけ
ウ. 医学的注意点、移動・ADL、介助方法、福祉用具、生活目標、再受診が必要な兆候
エ. 退院後は別施設なので情報共有しない

正答：ウ 医学的注意点、移動・ADL、介助方法、福祉用具、生活目標、再受診が必要な兆候
ア × 在宅生活を支えるには不十分である。
イ × 客観的で行動に役立つ情報が必要である。
ウ ○ 退院後に安全かつ継続的な支援を行うため、医療と生活の両面を引き継ぐ。
エ × 適切な同意・ルールのもと継続支援に必要な共有を行う。
総合解説：施設間連携では次の支援者が安全に介入できる情報を選んで伝える。

Q120 6-4 記録・情報 / チーム共有 [難易度:応用]
午後の理学療法で患者の歩行能力が急に低下し、片麻痺も増悪した。最も適切なものはどれか。
ア. 翌週の定例会議で報告する
イ. 記録だけして口頭報告しない
ウ. 疲労と決めつけ訓練を続ける
エ. 新たな神経症状として直ちに医師・看護師へ共有し、記録にも残す

正答：エ 新たな神経症状として直ちに医師・看護師へ共有し、記録にも残す
ア × 緊急性が高い。
イ × 即時対応が必要な情報は直接共有する。
ウ × 病態変化を見逃す危険がある。
エ ○ 急な片麻痺増悪は脳卒中再発などの可能性があり、次回カンファレンスまで待たない。
総合解説：共有の方法と速度は情報の緊急度に応じて選ぶ。

Q121 6-5 総合事例 / 初期評価 [難易度:基礎]

大腿骨近位部骨折術後1日目の初回理学療法で最初に確認すべき情報はどれか。

- ア. 術式、荷重条件、全身状態、疼痛、術後合併症リスク
- イ. 退院後の趣味だけ
- ウ. 握力だけ
- エ. 普段履いている靴の色

正答：ア 術式、荷重条件、全身状態、疼痛、術後合併症リスク

ア ○ 初回離床では手術内容と医学的安全性を確認してから機能評価へ進む。

イ × 重要だが初回安全確認より優先度は低い。

ウ × 下肢術後の離床可否を判断するには不十分である。

エ × 医学的安全性と関係しない。

総合解説：初期評価では診断名だけでなく、治療条件と当日の全身状態を確認する。

Q122 6-5 総合事例 / 初期評価 [難易度:標準]

長期臥床患者を初めて立位練習する。初期評価として最も適切なのはどれか。

- ア. 立位後の血圧は測らない
- イ. 安静時バイタルと座位・立位での循環応答を確認する
- ウ. 最初から階段昇降能力だけ評価する
- エ. めまいが出ても評価を続ける

正答：イ 安静時バイタルと座位・立位での循環応答を確認する

ア × 症状と血圧変化を確認する。

イ ○ 長期臥床後は起立性低血圧などが起こりやすく段階的評価が必要である。

ウ × 段階的離床が必要である。

エ × 安全な姿勢へ戻し再評価する。

総合解説：初期評価は患者へ負荷をかけながら安全性を確認するプロセスでもある。

Q123 6-5 総合事例 / 初期評価 [難易度:基礎]

脳卒中患者の初期理学療法評価として最も適切なものはどれか。

ア. 下肢筋力だけ測定する

イ. 歩けないので評価せず全介助とする

ウ. 意識、麻痺、感覚、筋緊張、座位・立位能力、バイタルを総合して評価する

エ. 麻痺側だけ見て非麻痺側は評価しない

正答：ウ 意識、麻痺、感覚、筋緊張、座位・立位能力、バイタルを総合して評価する

ア × 感覚・認知・姿勢制御等も重要である。

イ × 座位や移乗など残存能力を評価する。

ウ ○ 脳卒中では神経機能と基本動作、安全性を統合して介入計画を立てる。

エ × 全身機能を評価する。

総合解説：初期評価では機能障害だけでなく活動能力まで連続して把握する。

Q124 6-5 総合事例 / 初期評価 [難易度:標準]

COPD患者の初回運動療法前に評価すべき項目として最も適切なものはどれか。

ア. 肺疾患なので下肢機能は評価不要である

イ. 酸素療法中でも処方流量は確認しない

ウ. 安静時SpO2だけで運動耐容能を断定する

エ. 呼吸困難、SpO2、呼吸数、喀痰、運動耐容能、酸素処方

正答：エ 呼吸困難、SpO2、呼吸数、喀痰、運動耐容能、酸素処方

ア × 廃用・筋力低下が運動耐容能に影響する。

イ × 運動時安全管理に必要である。

ウ × 運動時反応も評価する。

エ ○ 呼吸器患者では症状、酸素化、分泌物、活動能力を統合する。

総合解説：内部障害では安静時所見と運動時反応の両方が重要である。

Q125 6-5 総合事例 / 初期評価 [難易度:標準]
慢性心不全患者の初期評価で増悪徴候として特に確認すべき組合せはどれか。
ア. 体重増加、浮腫、呼吸困難、起坐呼吸
イ. 握力、視力、聴力だけ
ウ. 身長と利き手だけ
エ. 膝ROMだけ

正答：ア 体重増加、浮腫、呼吸困難、起坐呼吸
ア ○ 体液貯留とうっ血の増悪は運動可否に直結する。
イ × 心不全増悪を評価できない。
ウ × 病態変化を示さない。
エ × 循環状態の把握には不十分である。
総合解説：初期評価では既往疾患の急性増悪がないかをまず確認する。

Q126 6-5 総合事例 / 初期評価 [難易度:応用]
腰痛患者の初期評価で最も適切なのはどれか。
ア. 痛みの数値だけで診断を確定する
イ. 疼痛部位・誘発動作に加え、神経症状や発熱、外傷歴など重篤病態を示す情報も確認する
ウ. 夜間痛や発熱は評価不要である
エ. 下肢しびれがあっても神経評価を行わない

正答：イ 疼痛部位・誘発動作に加え、神経症状や発熱、外傷歴など重篤病態を示す情報も確認する
ア × 疼痛強度だけでは病態を判別できない。
イ ○ 単純な運動器痛と決めつけず、red flagに相当する情報を確認する。
ウ × 重篤病態の手がかりとなる。
エ × 神経学的評価が必要である。
総合解説：初期評価では治療対象の特定と同時に、理学療法適応外の可能性を除外する。

Q127 6-5 総合事例 / 初期評価 [難易度:標準]
自宅で転倒を繰り返す高齢者の初期評価として最も適切なものはどれか。
ア. 転倒は年齢のせいとして評価しない
イ. 下肢筋力だけ測る
ウ. 転倒状況、筋力・バランス、起立性低血圧、薬剤、認知、住環境を評価する
エ. 転倒予防のため外出禁止だけを指導する

正答：ウ 転倒状況、筋力・バランス、起立性低血圧、薬剤、認知、住環境を評価する
ア × 修正可能因子が存在する。
イ × 環境・薬剤・循環等も重要である。
ウ ○ 転倒は多因子で起こるため身体機能だけでは不十分である。
エ × 不活動を助長する。
総合解説：総合事例では身体・医学・環境要因を統合して問題点を抽出する。

Q128 6-5 総合事例 / 初期評価 [難易度:基礎]
認知症のある患者の初回理学療法評価で最も適切なものはどれか。
ア. 診断名があるので認知機能は評価不要である
イ. 身体機能だけ測ればよい
ウ. 家族の説明だけで本人を観察しない
エ. 理解力、注意、見当識、指示の通りやすさ、移動能力、生活状況を確認する

正答：エ 理解力、注意、見当識、指示の通りやすさ、移動能力、生活状況を確認する
ア × 実際の能力には個人差がある。
イ × 認知面は介助方法に影響する。
ウ × 本人の実際の反応を確認する。
エ ○ 認知機能は動作学習・転倒・安全行動へ影響する。
総合解説：認知症があっても残存能力を具体的に評価し、支援方法を調整する。

Q129 6-5 総合事例 / 初期評価 [難易度:標準]

初期評価で患者の生活目標を確認する主な理由として最も適切なのはどれか。

- ア. 評価項目と介入目標を、本人が必要とする活動・参加へ結びつけるため
- イ. 患者希望は医学と無関係なので聞かない
- ウ. 目標は療法士の都合だけで決める
- エ. 生活目標は退院日だけ確認する

正答：ア 評価項目と介入目標を、本人が必要とする活動・参加へ結びつけるため
ア ○ 理学療法は身体機能改善そのものではなく生活機能向上を目指す。
イ × 目標設定に重要である。
ウ × 患者中心の意思決定が必要である。
エ × 初期段階から確認する意義がある。

総合解説：生活目標から必要能力を逆算すると評価の優先順位が明確になる。

Q130 6-5 総合事例 / 初期評価 [難易度:応用]

初期評価でベースラインを明確にする主な目的はどれか。

- ア. 初期値は一度測ったら記録しなくてよい
- イ. 介入後の変化を比較し、効果や病態変化を判断できるようにする
- ウ. 再評価では初回と別の指標だけ使う
- エ. 患者状態が変化しても評価し直さない

正答：イ 介入後の変化を比較し、効果や病態変化を判断できるようにする
ア × 経過比較に必要である。
イ ○ 開始時の状態が明確でなければ改善・悪化を客観的に判断しにくい。
ウ × 同じ指標での比較が有用な場合が多い。
エ × 変化に応じ再評価する。

総合解説：初期評価と再評価を同じ軸で結ぶことが治療効果判定の基本である。

Q131 6-5 総合事例 / 初期評価 [難易度:基礎]

複数の問題を持つ患者の初期評価後、介入優先順位を決める考え方として最も適切なのはどれか。

ア. 測定値が最も低い項目だけを必ず最優先する

イ. 療法士が得意な項目から決める

ウ. 生命・安全に関わる問題、患者の重要目標、改善可能性を考慮して優先順位をつける

エ. 問題が多いほど目標を設定しない

正答：ウ 生命・安全に関わる問題、患者の重要目標、改善可能性を考慮して優先順位をつける

ア × 生活への影響や危険性も考慮する。

イ × 患者中心で考える。

ウ ○ 全ての問題を同じ重みで扱うのではなく、安全性と生活上の重要性を統合する。

エ × 優先順位を整理して計画する。

総合解説：総合臨床では評価結果を列挙するだけでなく、優先順位をつける能力が重要である。

Q132 6-5 総合事例 / 初期評価 [難易度:標準]

初回歩行評価中に患者が突然片麻痺と構音障害を呈した。最も適切なのはどれか。

ア. 歩行速度測定を最後まで行う

イ. 疲労によるものと決めつける

ウ. 次回予約まで様子を見る

エ. 評価を中止し、急性神経症状として直ちに緊急報告・対応する

正答：エ 評価を中止し、急性神経症状として直ちに緊急報告・対応する

ア × 治療可能時間を失う危険がある。

イ × 脳卒中等の急変を否定できない。

ウ × 緊急評価が必要である。

エ ○ 評価完遂よりも新規神経症状への対応が優先される。

総合解説：初期評価そのものが患者負荷となるため、途中の異常所見を常に監視する。

Q133 6-5 総合事例 / 適応判断 [難易度:基礎]

理学療法実施の適応を判断する際に最も重要なのはどれか。

- ア. 病態が安定しているか、介入利益が危険を上回るかを評価する
- イ. 予定表に入っていれば必ず実施する
- ウ. 患者が希望すれば禁忌でも実施する
- エ. 前回できたので今回も評価不要である

正答：ア 病態が安定しているか、介入利益が危険を上回るかを評価する
ア ○ 理学療法は診断名だけで一律に実施せず、その日の状態とリスク・利益で判断する。
イ × 状態変化を考慮しない。
ウ × 安全性を無視できない。
エ × 当日の状態確認が必要である。
総合解説：適応判断は開始前だけでなく介入中にも更新する。

Q134 6-5 総合事例 / 適応判断 [難易度:標準]

患者に39 の発熱、悪寒、血圧低下がある。予定していた歩行訓練として最も適切なのはどれか。

- ア. 体力維持のため高強度歩行を行う
- イ. 訓練を見合わせ、感染症や循環不全を疑って医療評価を優先する
- ウ. 解熱するまで水分だけ与えて訓練を続ける
- エ. 発熱は理学療法適応に影響しない

正答：イ 訓練を見合わせ、感染症や循環不全を疑って医療評価を優先する
ア × 病態を悪化させ得る。
イ ○ 高熱と血圧低下は重篤な感染症等の可能性があり運動を優先しない。
ウ × 医学的評価が必要である。
エ × 全身状態の重要な指標である。
総合解説：急性全身症状があるときは運動療法より病態評価を優先する。

Q135 6-5 総合事例 / 適応判断 [難易度:標準]
病棟歩行開始直前に新規の前胸部圧迫感と冷汗が出現した。最も適切なのはどれか。
ア. 軽い歩行で改善するか確認する
イ. 患者が若ければ無視する
ウ. 歩行を開始せず、急性冠症候群を疑って速やかに報告する
エ. 次回診察まで経過を見る

正答：ウ 歩行を開始せず、急性冠症候群を疑って速やかに報告する
ア × 運動負荷をかけるべきでない。
イ × 年齢だけで除外できない。
ウ ○ 胸部圧迫感と冷汗は心筋虚血を示唆する警告症状である。
エ × 緊急評価が必要な可能性がある。
総合解説：適応判断では運動前の新規症状を見逃さない。

Q136 6-5 総合事例 / 適応判断 [難易度:応用]
術後患者に片側下腿の急な腫脹・疼痛が出現した。最も適切なのはどれか。
ア. 血流改善目的に強く揉む
イ. 症状がある側を集中的に筋トレする
ウ. 左右差を無視して通常歩行を行う
エ. DVTを疑い、強い下肢運動やマッサージを避けて医療評価につなげる

正答：エ DVTを疑い、強い下肢運動やマッサージを避けて医療評価につなげる
ア × 危険となり得る。
イ × 評価が優先される。
ウ × 重大合併症を見逃す。
エ ○ 血栓症が疑われる場合は肺塞栓リスクを考慮する。
総合解説：運動器術後でも全身合併症を考慮して適応を判断する。

Q137 6-5 総合事例 / 適応判断 [難易度:標準]
糖尿病患者が訓練前に冷汗、振戦、動悸を呈し血糖低下が疑われる。最も適切なのはどれか。
ア. 運動を開始せず低血糖への対応を優先する
イ. 運動で血糖を上げるため最大負荷を行う
ウ. 症状を我慢させる
エ. 症状があっても血糖確認は不要である

正答：ア 運動を開始せず低血糖への対応を優先する
ア ○ 低血糖下での運動はさらに血糖を低下させ危険である。
イ × 低血糖を悪化させ得る。
ウ × 意識障害へ進む可能性がある。
エ × 低血糖評価が必要である。
総合解説：代謝異常時は運動処方より急性対応を優先する。

Q138 6-5 総合事例 / 適応判断 [難易度:基礎]
離床前から著明な低血圧と意識レベル低下がある。最も適切なのはどれか。
ア. 立位にすれば血圧が必ず改善すると考える
イ. 離床を行わず、循環不全を疑って医療スタッフへ報告する
ウ. 歩行能力評価を優先する
エ. 昨日歩けたので今日も歩かせる

正答：イ 離床を行わず、循環不全を疑って医療スタッフへ報告する
ア × さらに低下する可能性がある。
イ ○ 意識変化を伴う低血圧は臓器灌流低下の可能性がある、離床適応ではない。
ウ × 生命・循環安定性が先である。
エ × 現在の状態を優先する。
総合解説：適応判断では数値だけでなく意識・症状を合わせて評価する。

Q139 6-5 総合事例 / 適応判断 [難易度:標準]

術後患者が強い疼痛を訴え、手術部位の荷重条件も不明である。最も適切なのはどれか。

- ア. 痛みを我慢させ全荷重歩行を行う
- イ. 患者が歩けそうなら指示確認は不要である
- ウ. 荷重条件と疼痛原因を確認してから負荷量を決める
- エ. 疼痛がある患者は全員永久に安静とする

正答：ウ 荷重条件と疼痛原因を確認してから負荷量を決める

ア × 安全条件が不明である。

イ × 治療上の制限を確認する。

ウ ○ 術式・組織治癒条件を確認せず負荷をかけると損傷リスクがある。

エ × 原因と時期に応じた活動を検討する。

総合解説：適応判断では組織保護と廃用予防の両方を考える。

Q140 6-5 総合事例 / 適応判断 [難易度:応用]

医学的には実施可能だが、判断能力のある患者が十分な説明後も訓練を拒否している。最も適切なのはどれか。

- ア. 安全なので無理に実施する
- イ. 拒否したので以後一切関わらない
- ウ. 家族に強制してもらう
- エ. 拒否理由を確認し意思を尊重しつつ、代替方法や再検討の機会を提示する

正答：エ 拒否理由を確認し意思を尊重しつつ、代替方法や再検討の機会を提示する

ア × 自己決定を侵害する。

イ × 継続的な支援や代替案を検討する。

ウ × 自由意思を損なう。

エ ○ 医学的適応があっても患者の自己決定を無視して強制できない。

総合解説：適応判断には医学的適応だけでなく倫理的・患者中心の判断も含まれる。

Q141 6-5 総合事例 / 適応判断 [難易度:基礎]
前日に訓練中止となった患者の翌日の対応として最も適切なのはどれか。
ア. 中止理由、その後の診断・治療、現在の症状とバイタルを再確認して実施可否を判断する
イ. 予定表に戻っていれば確認せず開始する
ウ. 前日中止なら原因に関係なく一週間休む
エ. 患者の『大丈夫』だけで再開する

正答：ア 中止理由、その後の診断・治療、現在の症状とバイタルを再確認して実施可否を判断する
ア ○ 一度中止したから永久中止でも、翌日自動再開でもなく再評価が必要である。
イ × 安全性を確認していない。
ウ × 病態に応じて判断する。
エ × 客観的情報も確認する。
総合解説：中止基準と再開基準はセットで考え、情報を更新して判断する。

Q142 6-5 総合事例 / 連携・報告 [難易度:標準]
訓練中に患者が意識を失った。最も適切なのはどれか。
ア. セッション終了時まで様子を見る
イ. 直ちに応援を要請し、一次評価と救急対応を開始して必要情報を簡潔に報告する
ウ. 先に詳細な報告書を書く
エ. 一人で抱えて他職種へ知らせない

正答：イ 直ちに応援を要請し、一次評価と救急対応を開始して必要情報を簡潔に報告する
ア × 対応が遅れる。
イ ○ 意識消失は緊急事態であり、記録や定例報告より救命対応が先である。
ウ × 患者対応が最優先である。
エ × 速やかな応援要請が必要である。
総合解説：緊急時は行動と報告を並行し、チームで対応する。

Q143 6-5 総合事例 / 連携・報告 [難易度:標準]
医師へ『運動中に胸痛が出た患者』をSBARで報告する際、Situationとして最も適切なのはどれか。
ア. 入院から現在までの全経過を最初から話す
イ. 自分の希望だけを先に伝える
ウ. 『歩行練習中に胸部圧迫感が出現し、現在訓練を中止しています』
エ. 患者住所と家族構成だけ伝える

正答：ウ 『歩行練習中に胸部圧迫感が出現し、現在訓練を中止しています』
ア × Backgroundに整理すべき内容を含み冗長である。
イ × Recommendationに相当する。
ウ ○ Situationでは今何が起きているかを簡潔に伝える。
エ × 現在の緊急状況が伝わらない。
総合解説：構造化報告は緊急情報の要点を早く伝えるために用いる。

Q144 6-5 総合事例 / 連携・報告 [難易度:基礎]
脳卒中回復期患者で、昨日までなかった嚥下時のむせと湿性嚔声が出現した。最も適切なのはどれか。
ア. 理学療法とは無関係なので共有しない
イ. 水を大量に飲ませて確認する
ウ. 次回カンファレンスまで何もしない
エ. 誤嚥リスクの変化として看護師・医師・言語聴覚士等へ共有する

正答：エ 誤嚥リスクの変化として看護師・医師・言語聴覚士等へ共有する
ア × 全身状態とリハ進行に影響する。
イ × 安全な評価なしでは危険である。
ウ × 早期共有が望ましい。
エ ○ 新規嚥下症状は誤嚥性肺炎リスクに関わるため多職種連携が必要である。
総合解説：理学療法士が見つけた他領域の異常も適切な専門職へつなく。

Q145 6-5 総合事例 / 連携・報告 [難易度:応用]
退院予定患者が自宅では階段昇降が必要だが、病棟ではまだ未評価である。最も適切なのはどれか。
ア. 退院条件としてチームへ共有し、安全に階段能力を評価・練習して環境調整も検討する
イ. 院内平地歩行ができれば問題ないとする
ウ. 退院後に初めて階段を試す
エ. 理学療法士だけで退院日を変更する

正答：ア 退院条件としてチームへ共有し、安全に階段能力を評価・練習して環境調整も検討する
ア ○ 生活環境に必要な課題を退院前に評価することが重要である。
イ × 自宅課題を満たしていない。
ウ × 転倒リスクが高い。
エ × 多職種・患者家族との調整が必要である。
総合解説：退院支援では生活上必要な能力と環境をチームで共有する。

Q146 6-5 総合事例 / 連携・報告 [難易度:標準]
運動強度に関する医師の指示が曖昧で、患者には重度心疾患がある。最も適切なのはどれか。
ア. 経験だけで最大負荷を決める
イ. 実施前に許容負荷や中止基準を医師へ確認する
ウ. 患者希望だけで強度を決める
エ. 曖昧なまま実施し問題が起きたら報告する

正答：イ 実施前に許容負荷や中止基準を医師へ確認する
ア × 安全性が担保できない。
イ ○ 不明確な指示を自己解釈せず、重大リスクがあるほど事前確認が重要である。
ウ × 医学的制限を確認する。
エ × 予防的確認が必要である。
総合解説：連携・報告は事故後だけでなく、事故を防ぐための事前確認にも使う。

Q147 6-5 総合事例 / 連携・報告 [難易度:基礎]
理学療法室ではトイレ移乗が見守りで可能になった。最も適切なのはどれか。
ア. 理学療法室だけ見守り、病棟では永続的に全介助とする
イ. 患者へだけ伝えてスタッフには共有しない
ウ. 病棟で安全に実施できる条件を看護師等と共有し、実生活での介助量を調整する
エ. 一度成功したので無条件に独歩許可とする

正答：ウ 病棟で安全に実施できる条件を看護師等と共有し、実生活での介助量を調整する
ア × 能力を生活へ反映できない。
イ × 介助方法が統一されない。
ウ ○ 訓練室での能力を日常生活へ一般化するにはチーム共有が必要である。
エ × 環境・疲労・認知等を確認する。
総合解説：『できるADL』を『しているADL』へつなぐには病棟スタッフとの連携が重要である。

Q148 6-5 総合事例 / 連携・報告 [難易度:標準]
退院後に家族が移乗介助を行う予定である。最も適切なのはどれか。
ア. 口頭で一度説明すれば十分である
イ. 家族の体力は考慮しない
ウ. 患者本人には説明しない
エ. 患者の残存能力を活かす介助方法を家族と実際に練習し、安全性を確認する

正答：エ 患者の残存能力を活かす介助方法を家族と実際に練習し、安全性を確認する
ア × 実際の介助技術を確認する。
イ × 介助者の安全も重要である。
ウ × 本人も方法を理解し参加することが望ましい。
エ ○ 家族が退院後に再現できる方法を実技で共有することが重要である。
総合解説：家族も退院支援チームの重要な一員として扱う。

Q149 6-5 総合事例 / 連携・報告 [難易度:応用]
退院後に訪問リハビリへ移行する患者の引継ぎとして最も適切なのはどれか。
ア. 現在の機能、医学的注意点、介助方法、福祉用具、目標、急変時の注意点を必要範囲で共有する
イ. 退院時点の歩行速度だけを送る
ウ. 個人情報保護のため一切共有しない
エ. 全診療記録を目的を考えず無制限に送る

正答：ア 現在の機能、医学的注意点、介助方法、福祉用具、目標、急変時の注意点を必要範囲で共有する
ア ○ 地域支援者が安全に継続できる情報を選択して引き継ぐ。
イ × 生活支援に必要な情報が不足する。
ウ × 適切な同意と必要範囲で共有する。
エ × 必要性に応じた情報選択が必要である。
総合解説：連携では情報不足と過剰共有の両方を避ける。

Q150 6-5 総合事例 / 連携・報告 [難易度:標準]
緊急報告を行った後の対応として最も適切なのはどれか。
ア. 曖昧に聞こえても推測して実行する
イ. 指示内容を復唱・確認し、実施結果を必要に応じ再報告する
ウ. 指示を受けたら記録しない
エ. 結果が悪化しても報告しない

正答：イ 指示内容を復唱・確認し、実施結果を必要に応じ再報告する
ア × 確認が必要である。
イ ○ 重要な指示は受けっぱなしにせず、内容確認と結果共有まで行うことで伝達エラーを減らす。
ウ × 後続スタッフにも分かるよう記録する。
エ × 状態変化は再共有する。
総合解説：安全なコミュニケーションは報告→確認→実施→結果共有の閉ループで行う。